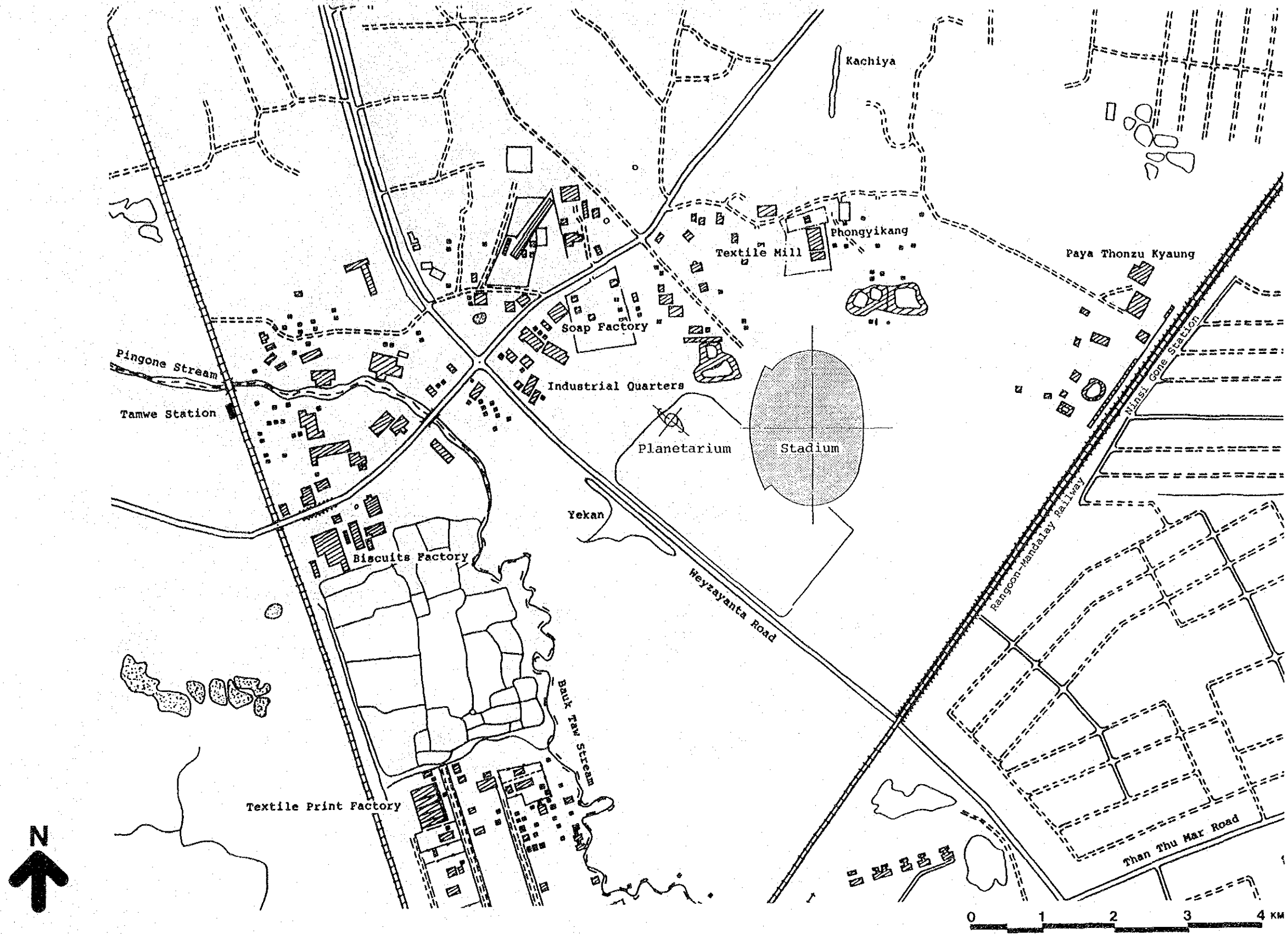


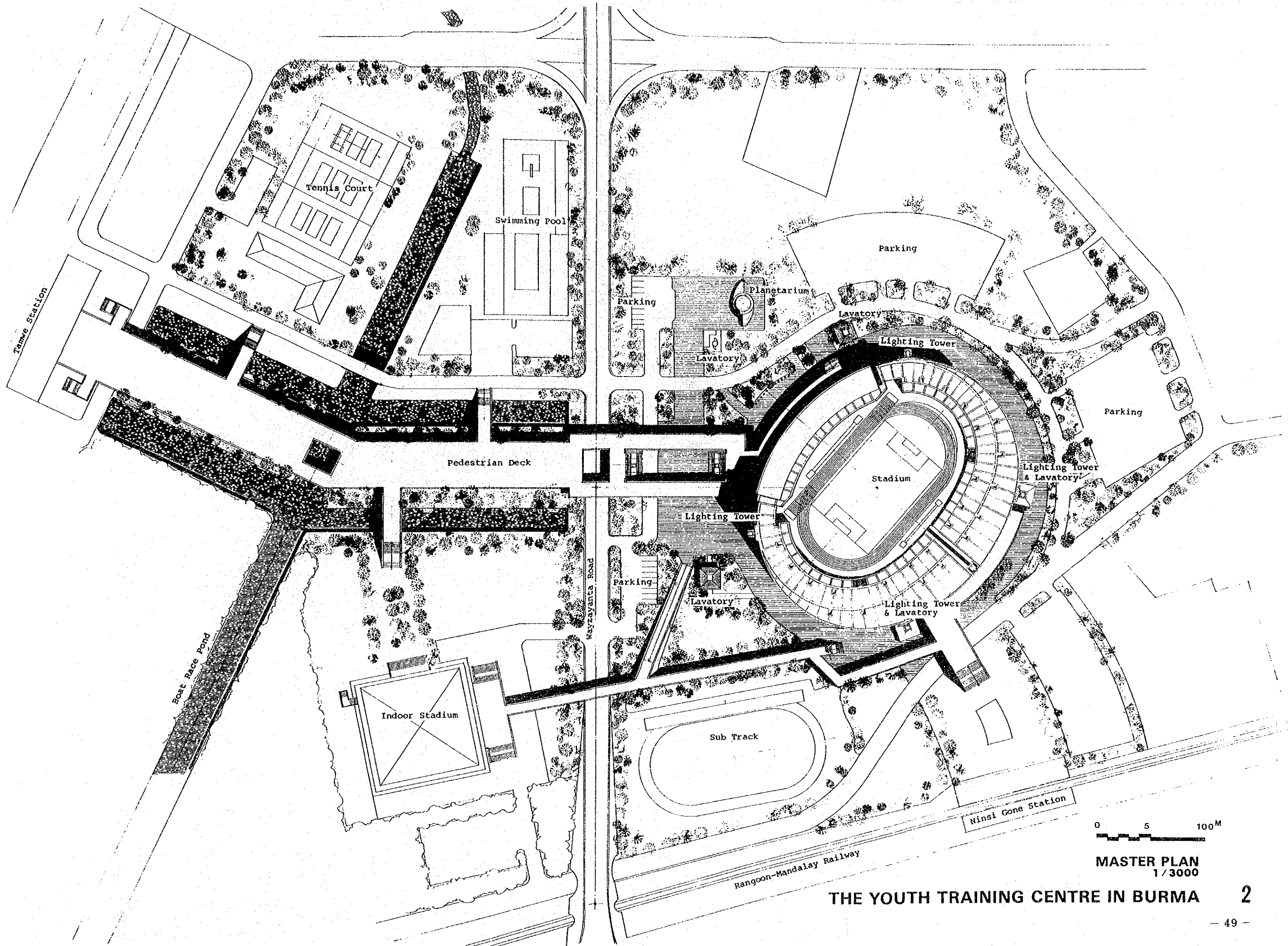
4-3-5 基本設計図

1. LOCATION MAP	1/5500
2. MASTER PLAN	1/3000
3. SITE PLAN	1/2000
4. STAND FLOOR PLAN	1/1000
5. GROUND FLOOR PLAN	1/1000
6. 1st·2nd·4th FLOOR PLAN	1/500
7. SECTION & ELEVATION - 1	1/600
8. ELEVATION - 2	1/600
9. LIGHTING TOWER & LAVATORY	1/500
10. PLANETARIUM & LAVATORY	1/200
11. FUTURE EXTENTION PLAN	1/1000
12. 模型写真	

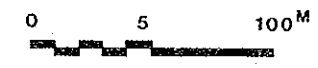


LOCATION MAP  
1/5500

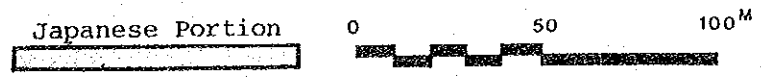
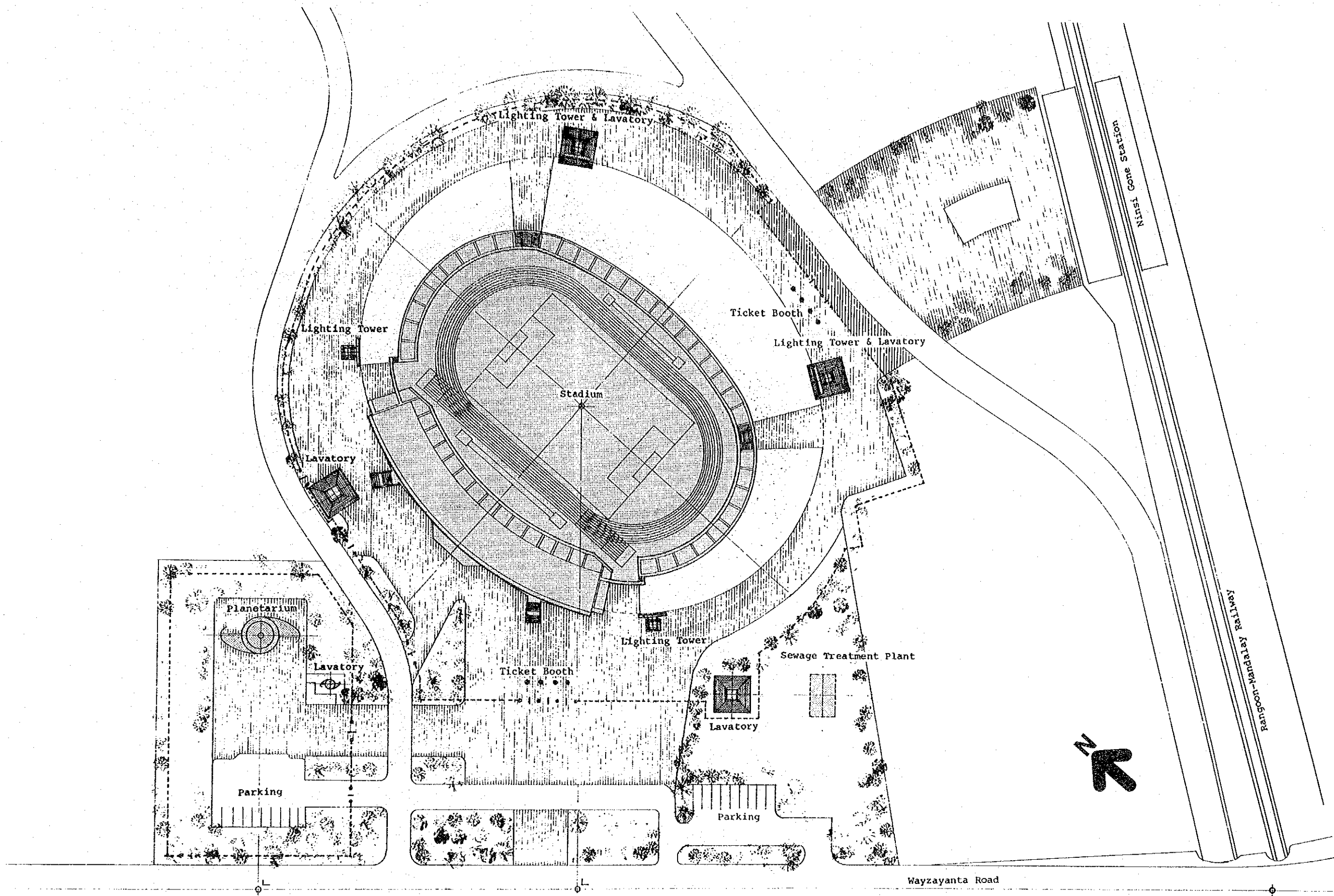
THE YOUTH TRAINING CENTRE IN BURMA



THE YOUTH TRAINING CENTRE IN BURMA

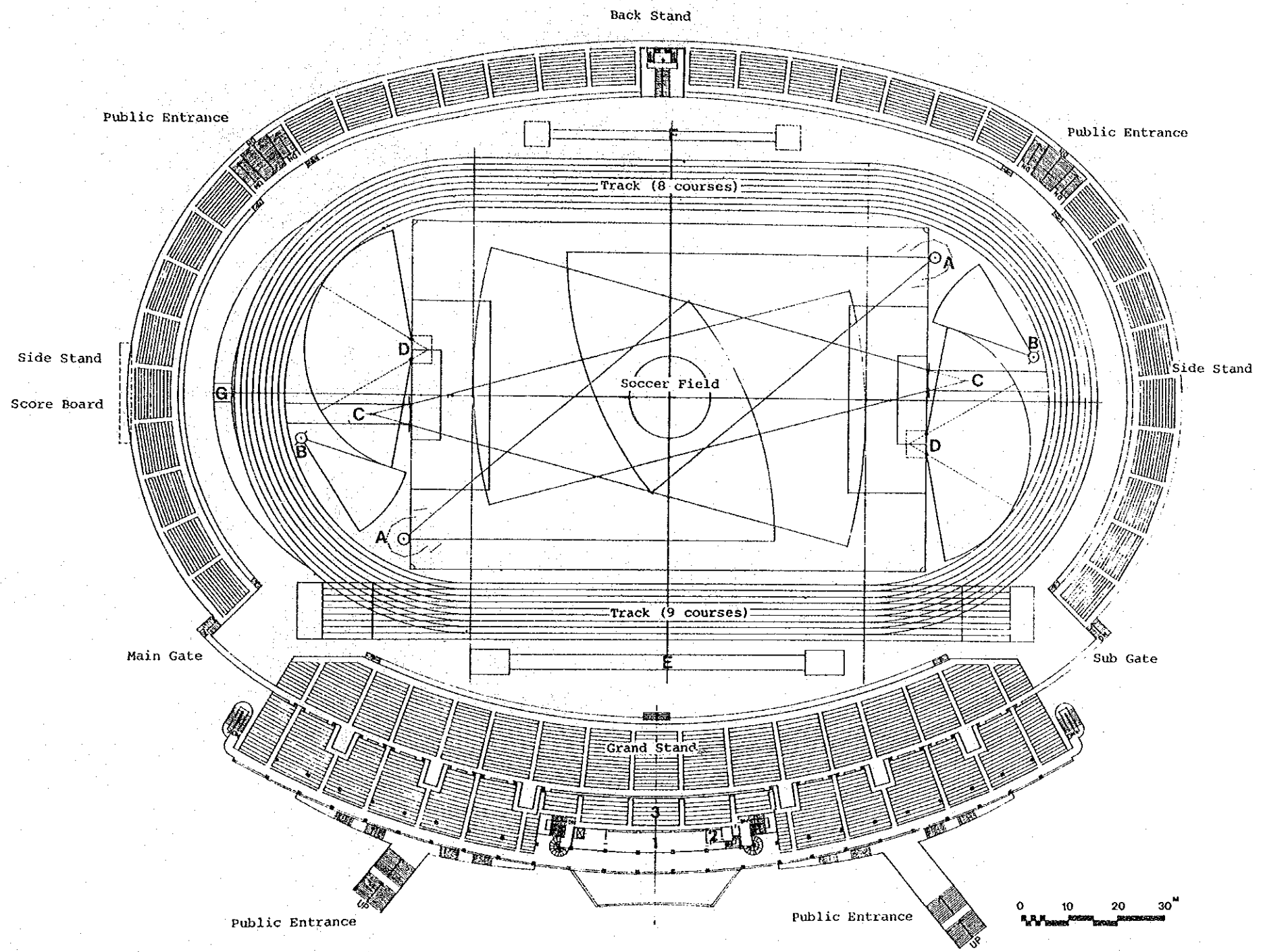


MASTER PLAN  
1/3000



SITE PLAN  
1 / 2000

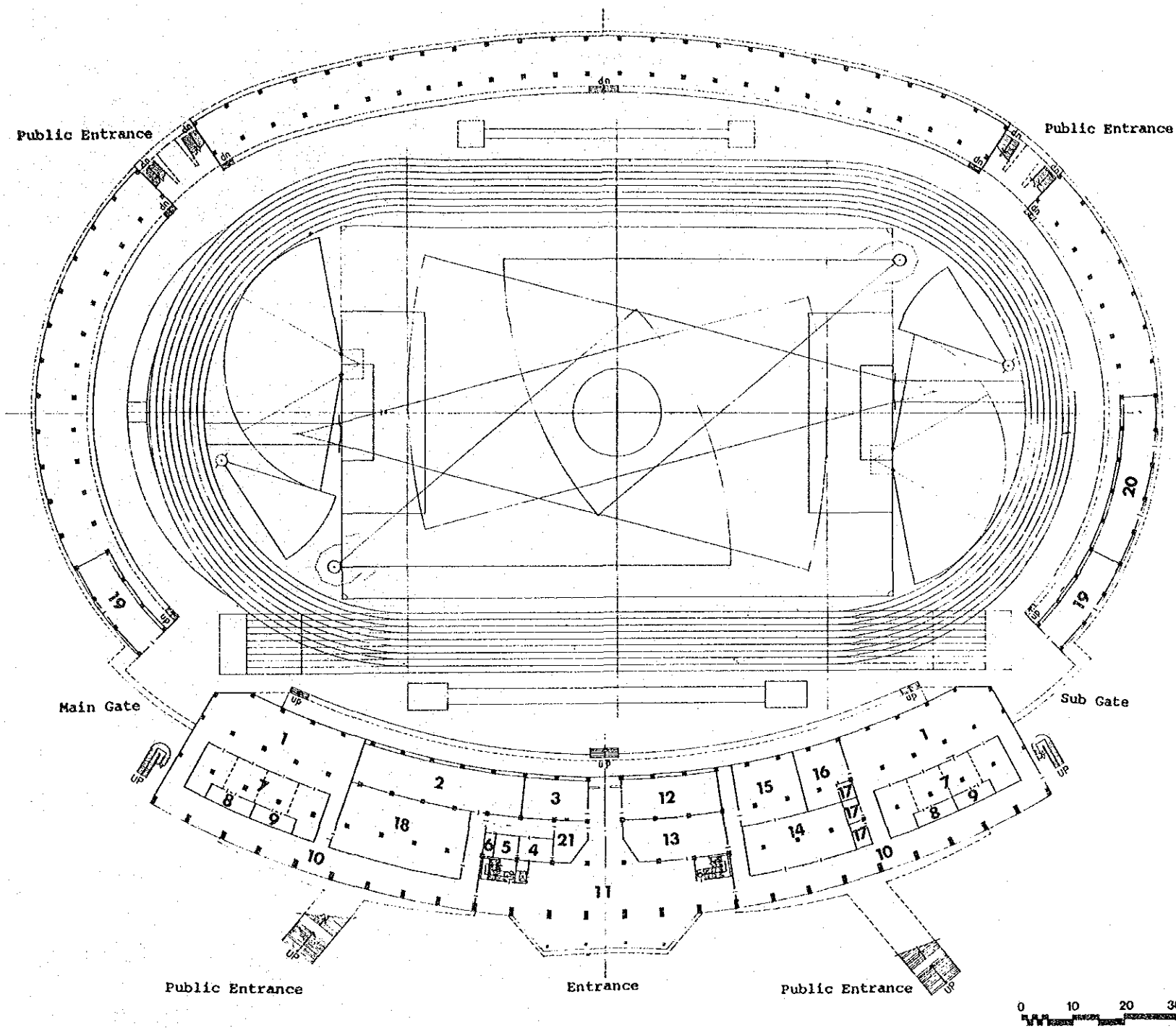
THE YOUTH TRAINING CENTRE IN BURMA 3



- 1 V.I.P. Seats
- 2 Service Room
- 3 Box Seats

- A Hammer Throwing
- Throwing the Disk
- B Putting the Shot
- C Javelin Throwing
- D High Jump
- E Long Jump
- Triple Jump
- F Pole vault
- G 3.000 Meter Steeplechase

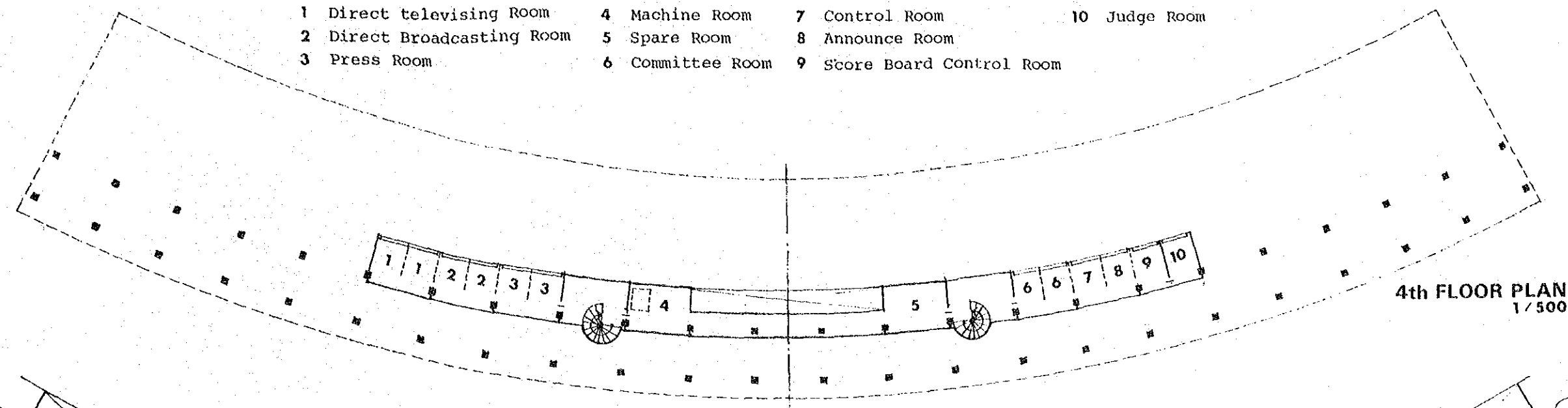
STAND FLOOR PLAN  
1/1000



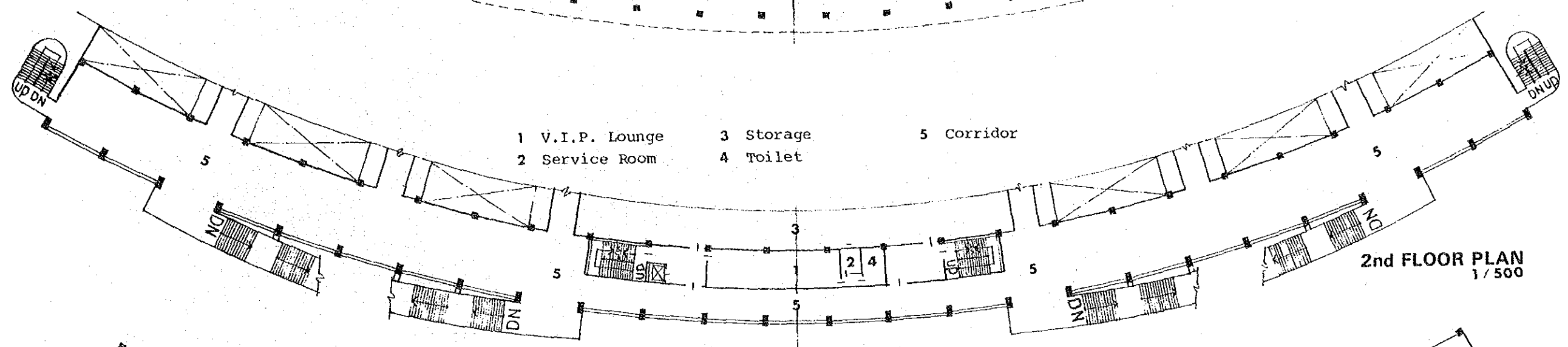
- 1 Gathering Hall
- 2 Committee Room
- 3 V.I.P. Room
- 4 Security
- 5 Shower Room
- 6 Toilet
- 7 Dressing Room
- 8 Shower Room & W.C (F)
- 9 Shower Room & W.C (M)
- 10 Corridor
- 11 Entrance Hall
- 12 Referee Room
- 13 Office
- 14 Multipurpose Room
- 15 Press Facilities
- 16 Medical Room
- 17 W.C.
- 18 Electric Control Room
- 19 Storage
- 20 Training Room
- 21 Cloak Room

GROUND FLOOR PLAN  
1/1000

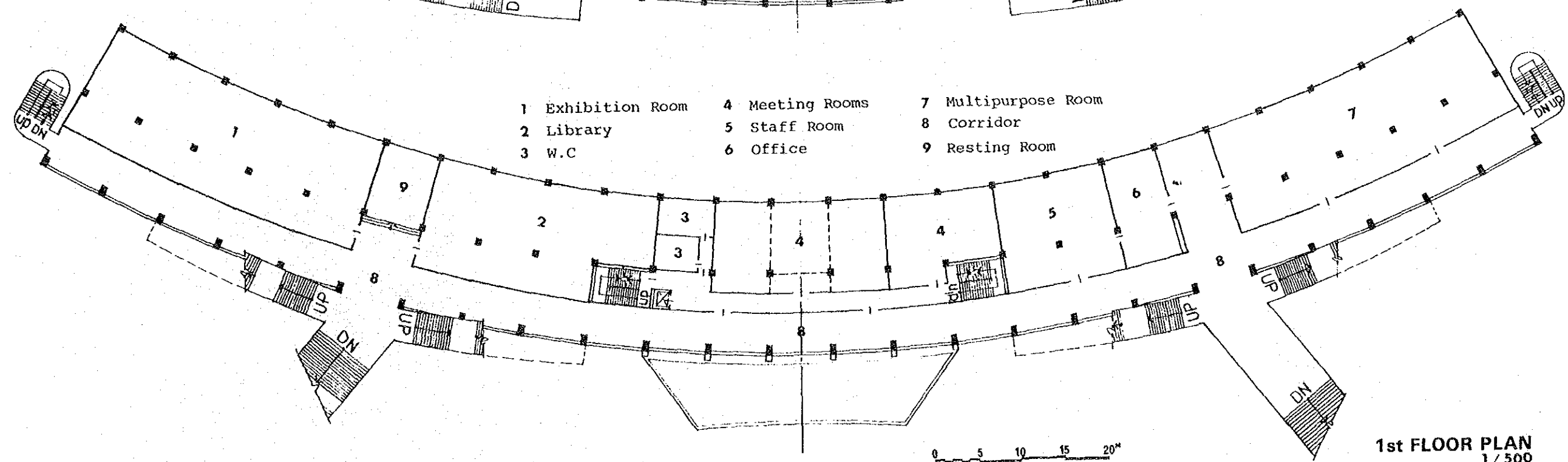
- |                            |                  |                            |               |
|----------------------------|------------------|----------------------------|---------------|
| 1 Direct televising Room   | 4 Machine Room   | 7 Control Room             | 10 Judge Room |
| 2 Direct Broadcasting Room | 5 Spare Room     | 8 Announce Room            |               |
| 3 Press Room               | 6 Committee Room | 9 Score Board Control Room |               |



4th FLOOR PLAN  
1/500



2nd FLOOR PLAN  
1/500



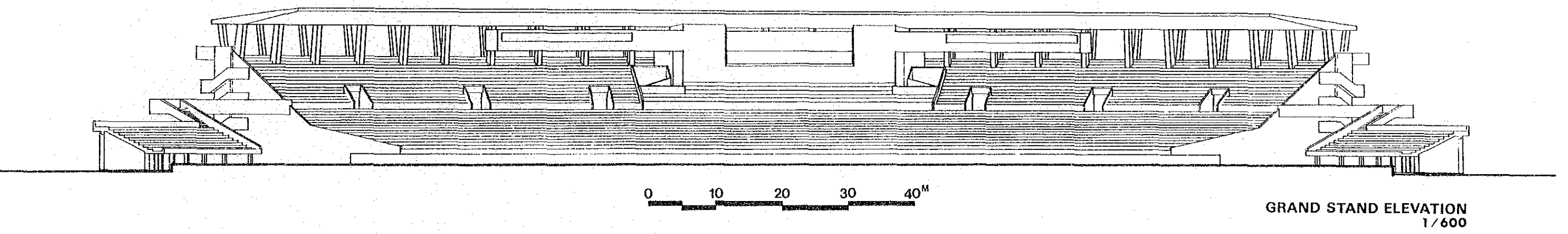
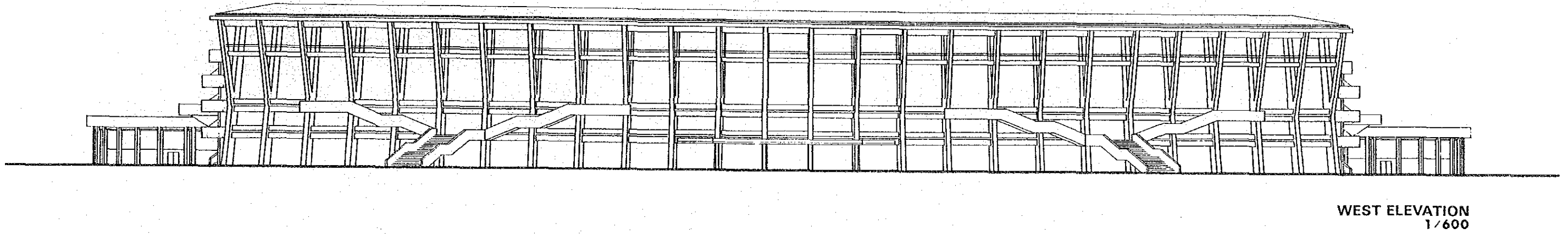
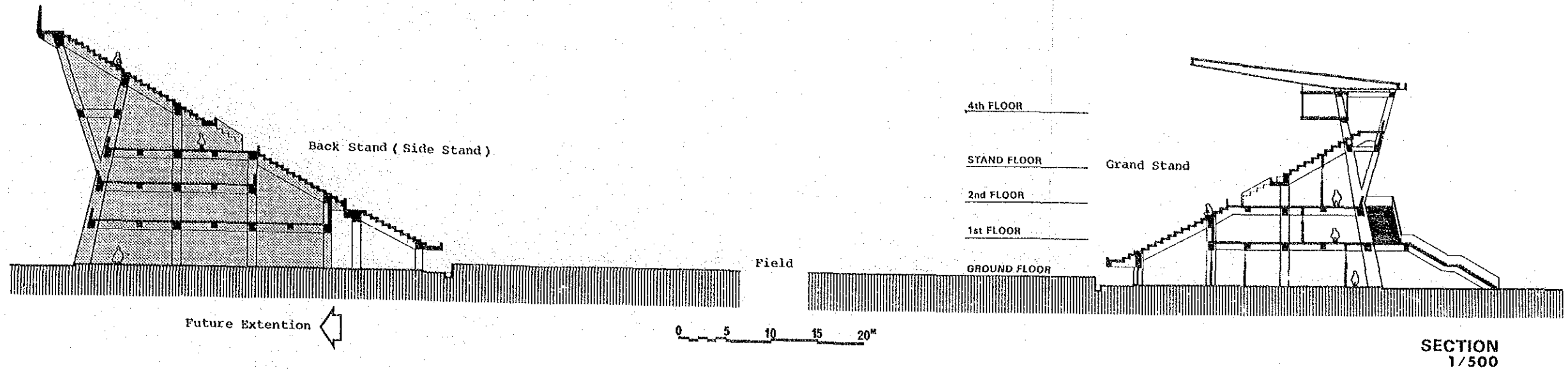
1st FLOOR PLAN  
1/500

- |                 |           |            |
|-----------------|-----------|------------|
| 1 V.I.P. Lounge | 3 Storage | 5 Corridor |
| 2 Service Room  | 4 Toilet  |            |

- |                   |                 |                     |
|-------------------|-----------------|---------------------|
| 1 Exhibition Room | 4 Meeting Rooms | 7 Multipurpose Room |
| 2 Library         | 5 Staff Room    | 8 Corridor          |
| 3 W.C.            | 6 Office        | 9 Resting Room      |

0 5 10 15 20m

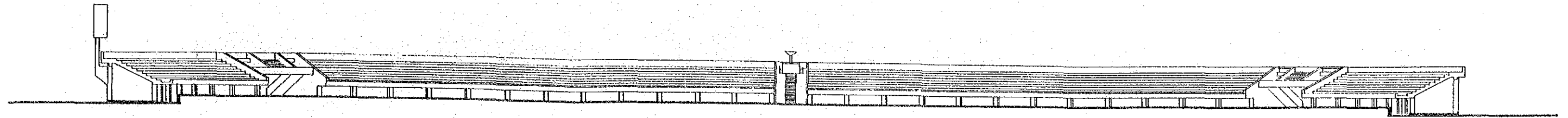
THE YOUTH TRAINING CENTRE IN BURMA 6



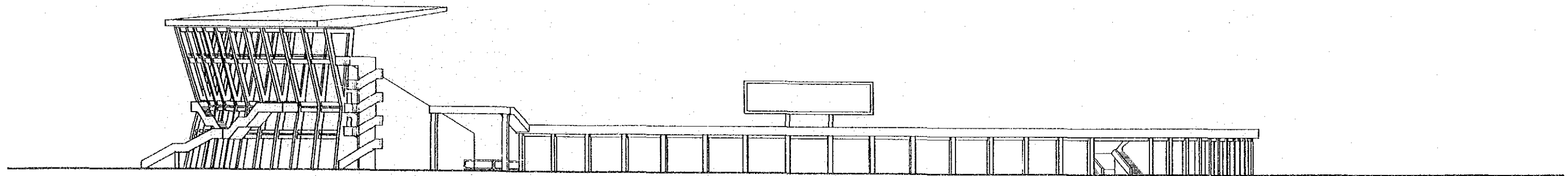
SECTION & ELEVATION 1

THE YOUTH TRAINING CENTRE IN BURMA 7

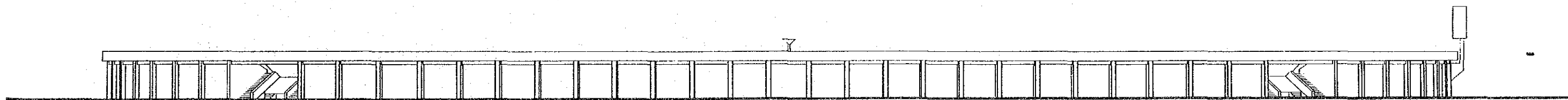




BACK STAND ELEVATION



SOUTH ELEVATION

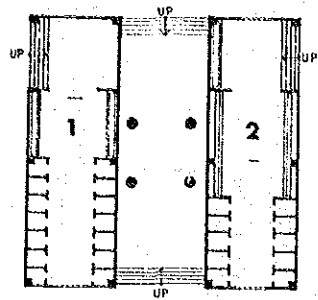


EAST ELEVATION



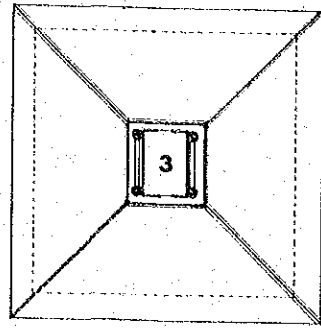
ELEVATION 2  
1/600

THE YOUTH TRAINING CENTRE IN BURMA 8

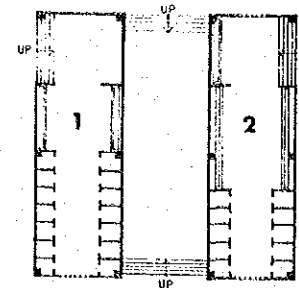


- 1 W.C (F)
- 2 W.C (M)
- 3 Power Substation

PLAN

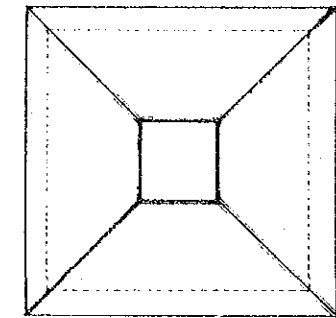


ROOF PLAN

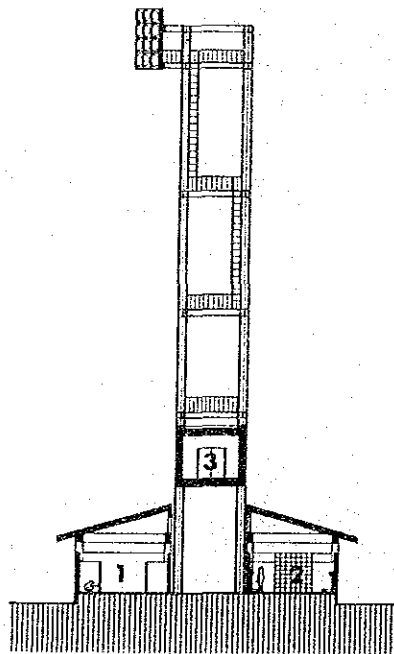


- 1 W.C (F)
- 2 W.C (M)

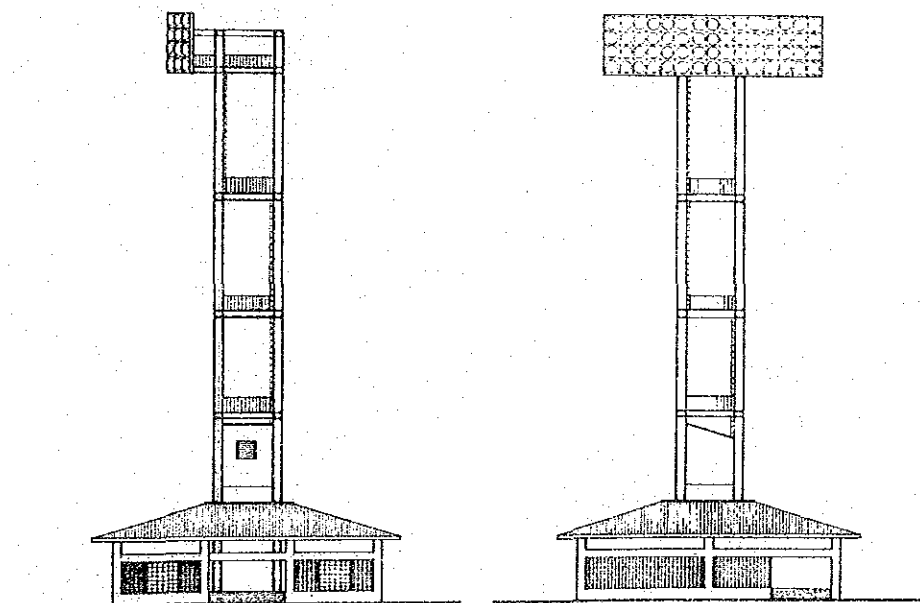
PLAN



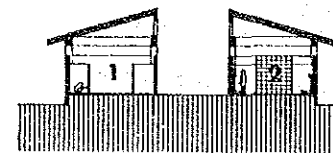
ROOF PLAN



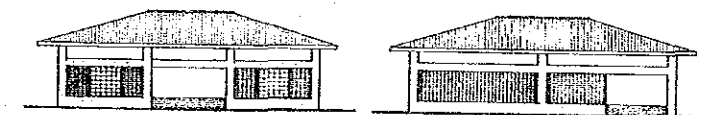
SECTION



ELEVATION



SECTION



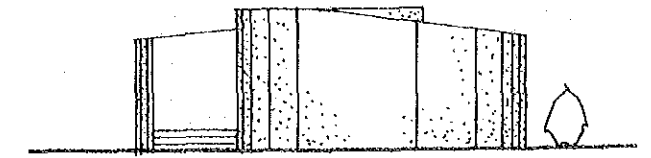
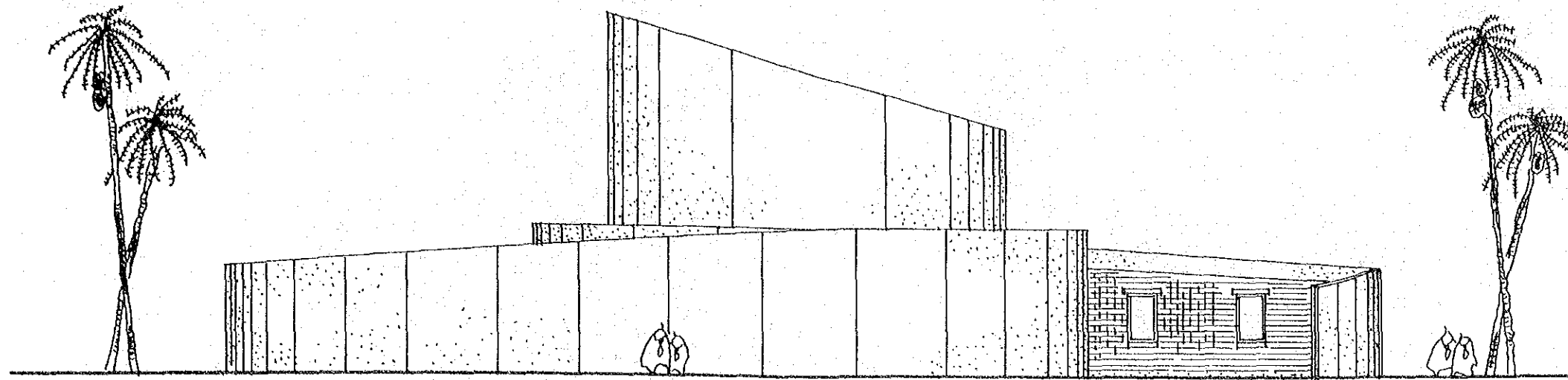
ELEVATION



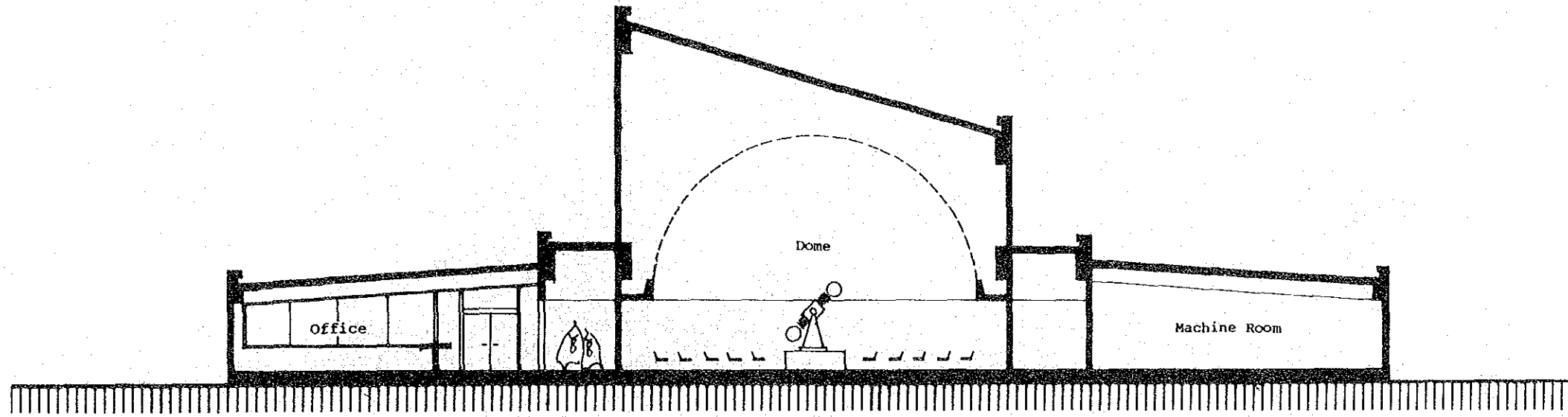
LIGHTING TOWER & LAVATORY  
1/500

LAVATORY  
1/500

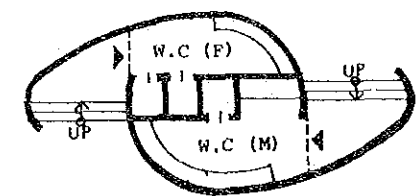
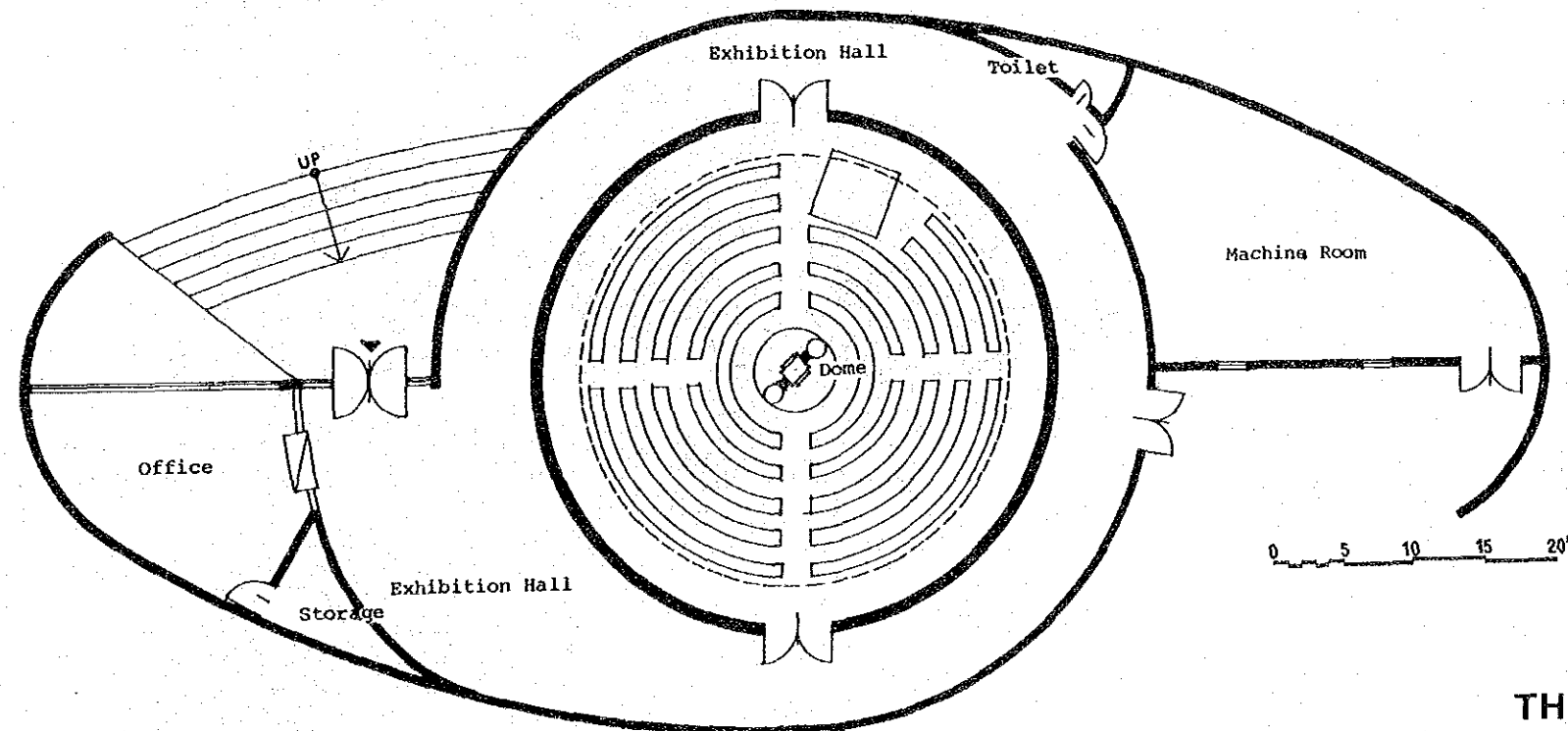
THE YOUTH TRAINING CENTRE IN BURMA



ELEVATION



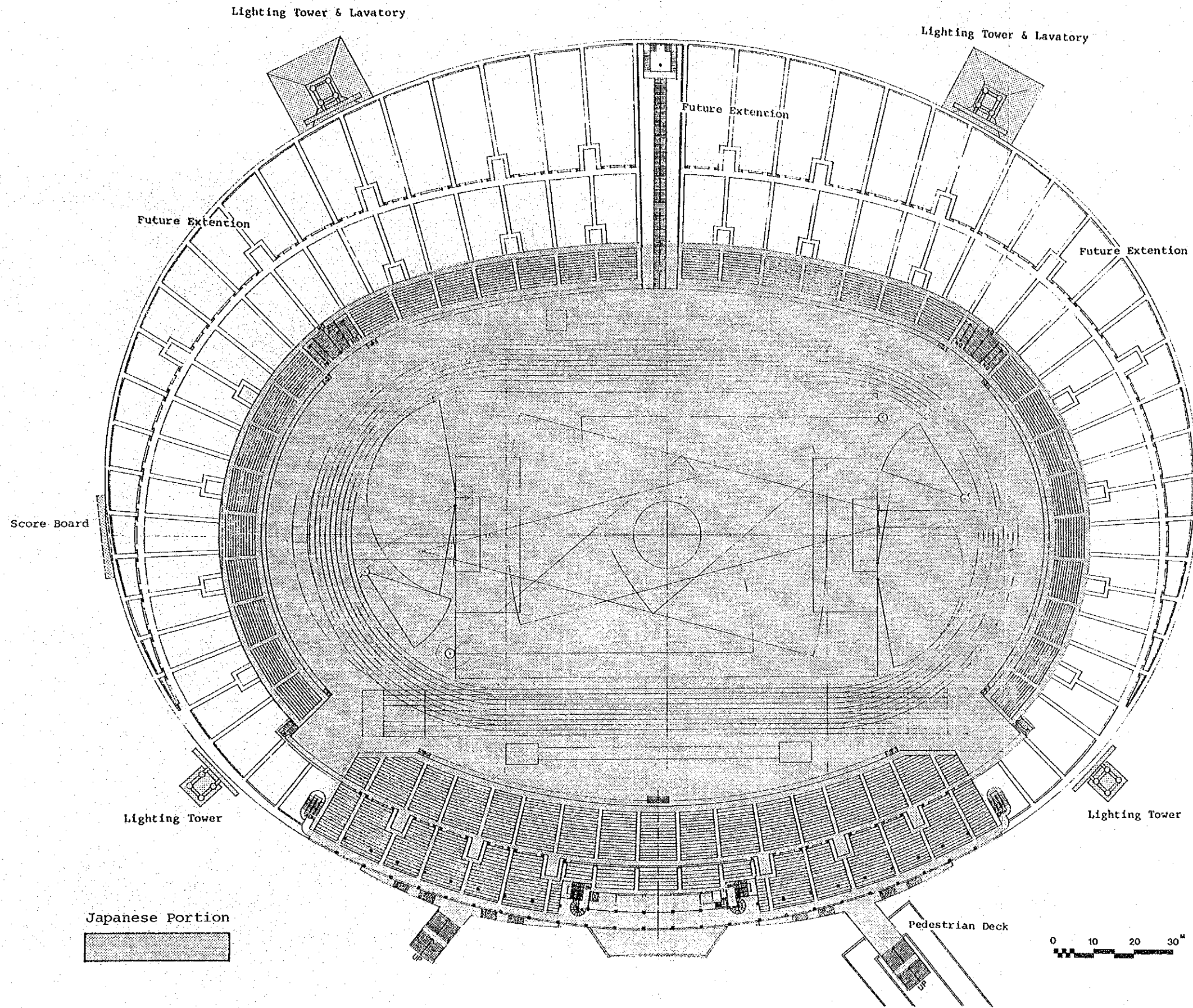
SECTION



PLAN

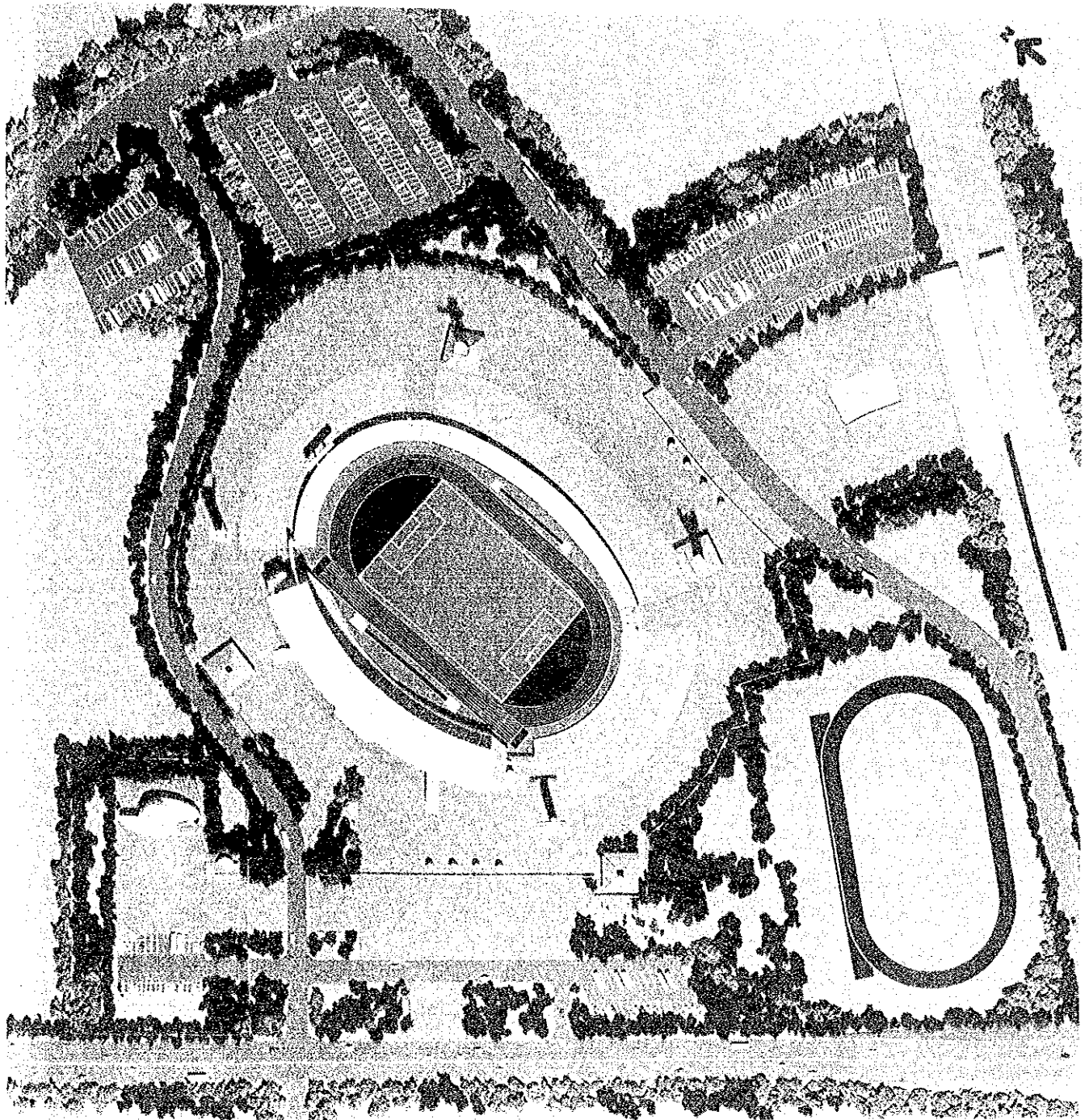
PLANETARIUM & LAVATORY  
1/200

THE YOUTH TRAINING CENTRE IN BURMA 10



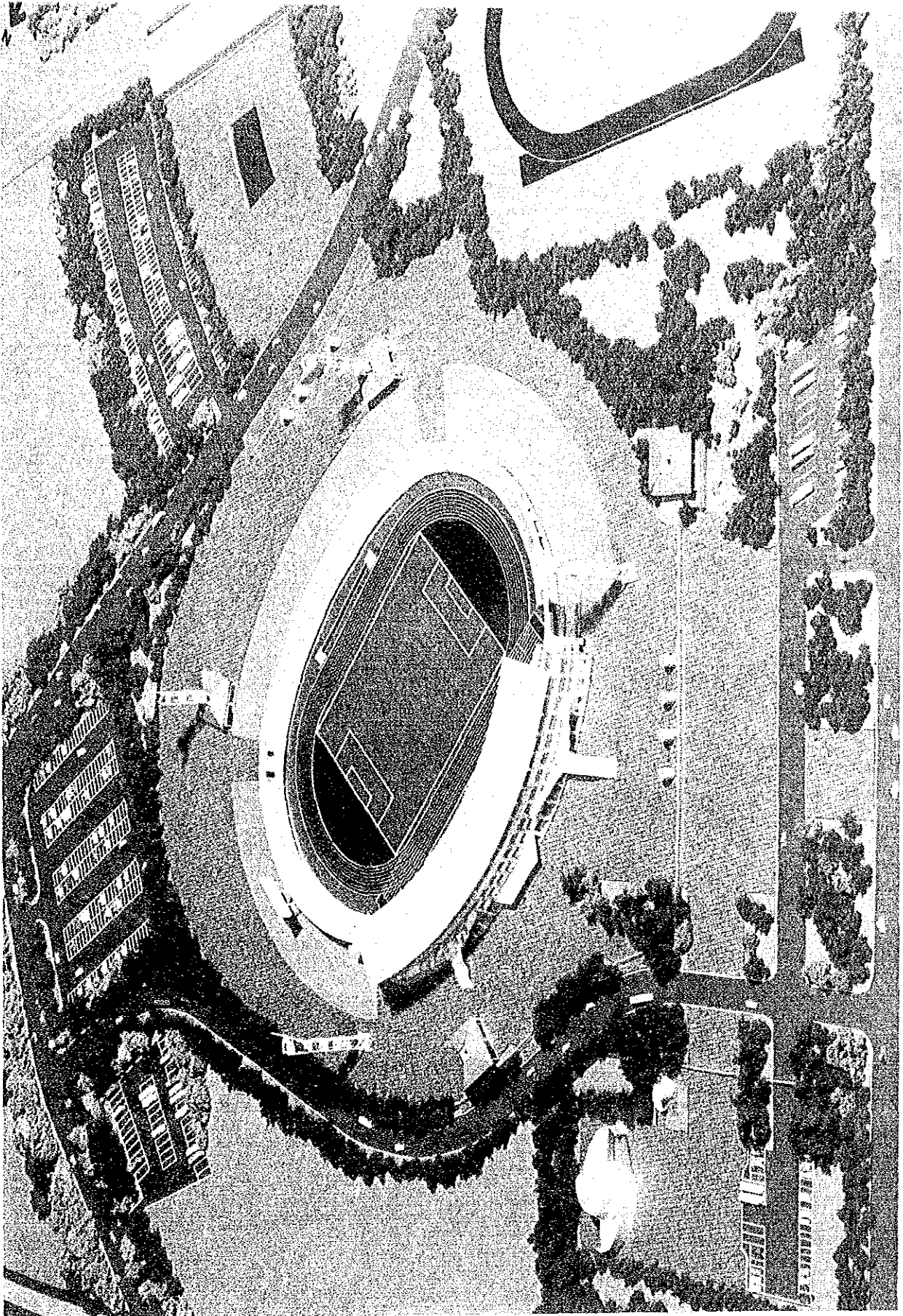
FUTURE EXTENSION PLAN  
1/1000





BIRD EYE VIEW MODEL PHOTO









4-4 事業費概算

(単位：百万円)

	日本国負担分	ビルマ国負担分
建設費	4,772.5	1,130
機材費	160.2	—
コンサルタント料	310	—
予備費	257.3	—
合計	5,500	1,130

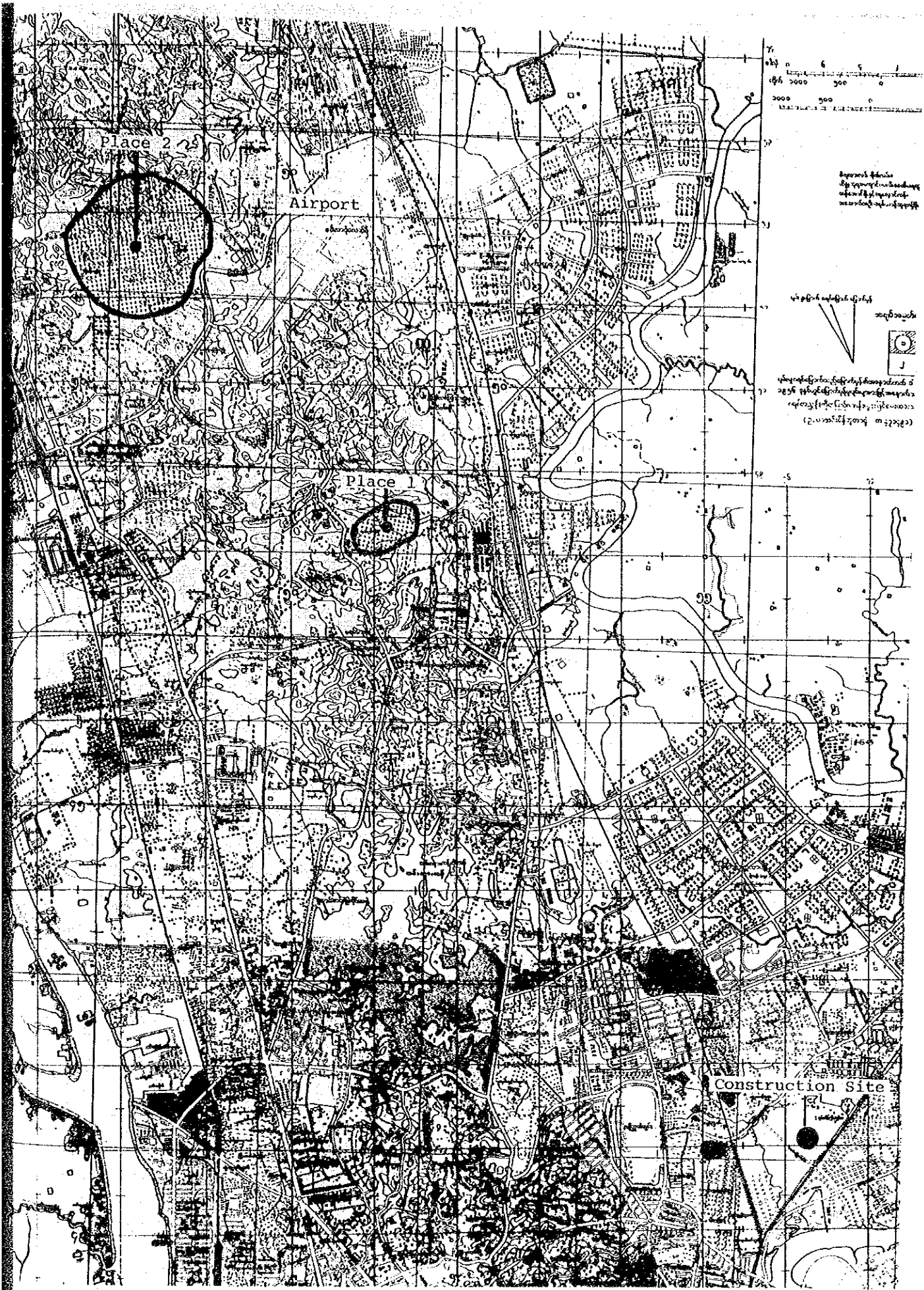
#### 4-5 敷地造成工事

前述したように、本計画が現地で着工されるための最大の技術的障壁は、敷地造成工事の成否にある。

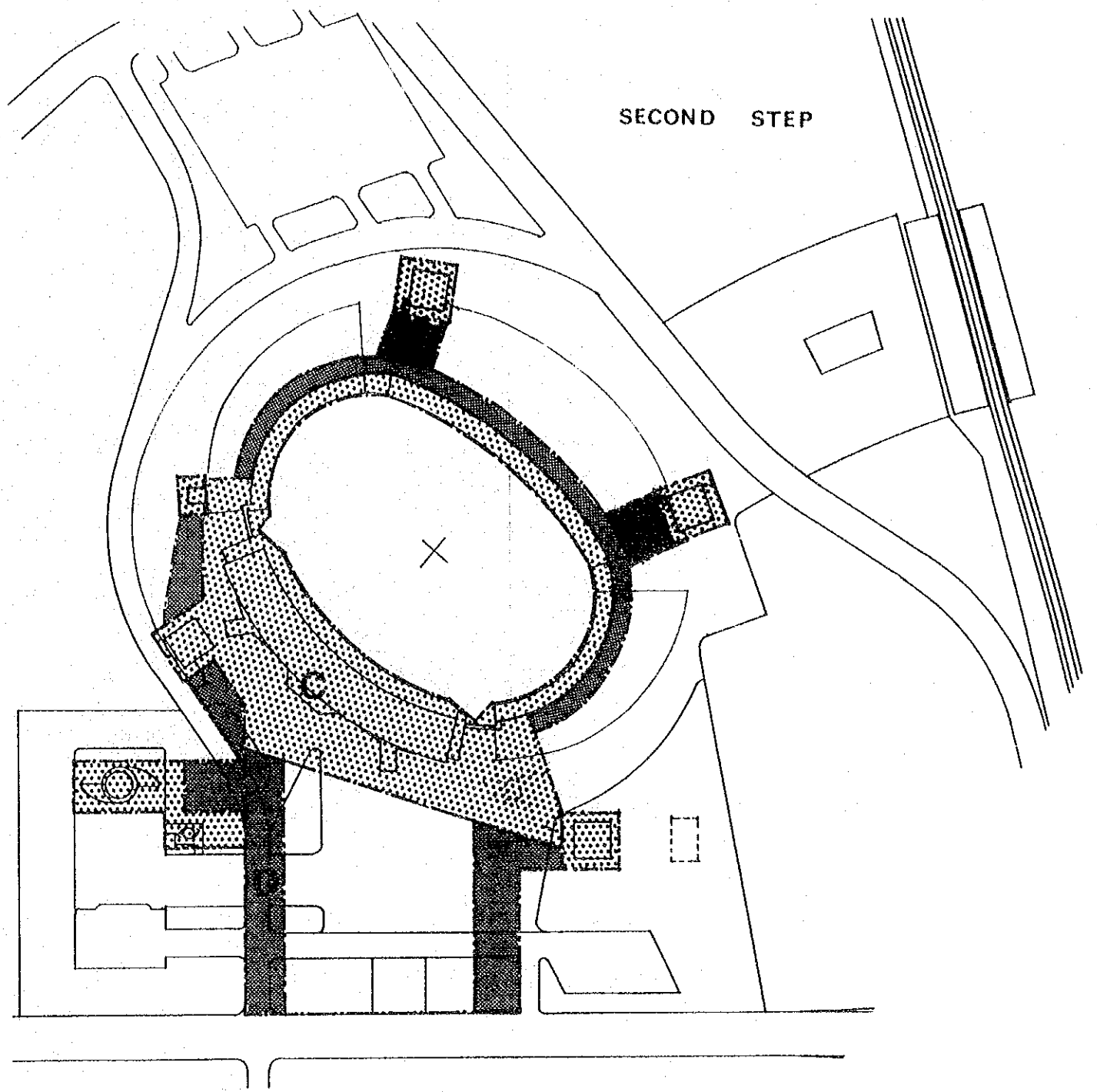
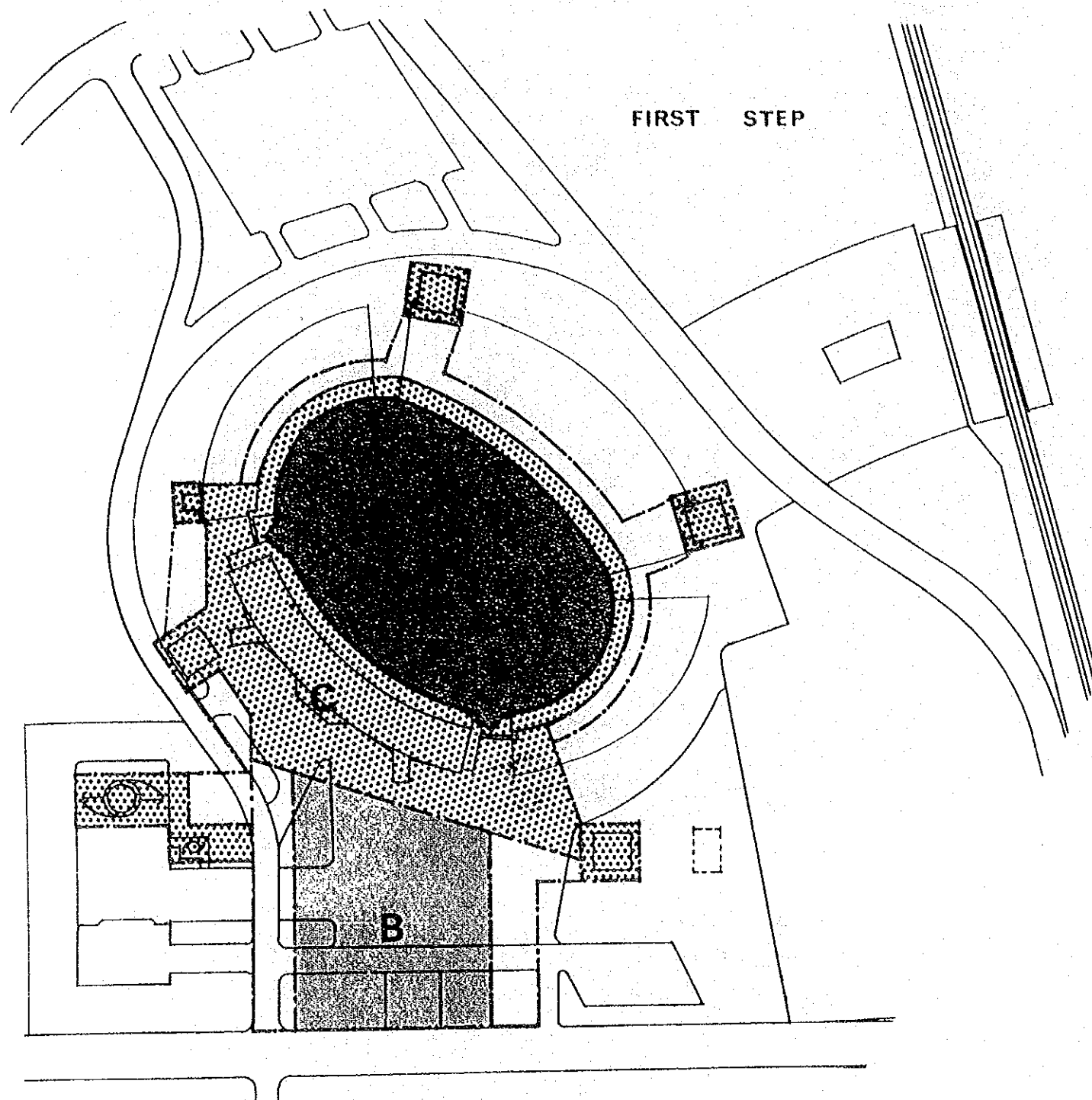
- ① ビルマ国側によって、80,000 m<sup>3</sup>、160,000 m<sup>3</sup>の盛土工事を行うこと。
- ② 日本側の杭打ち工事着手までにそのうち110,000 m<sup>3</sup>の盛土工事を完了させておくこと。
- ③ 盛土用の土には砂質土を用いること。

以上3項目を重点に、(表6、図12.13)に示す盛土計画図を作成した。この計画図のうちグラウンド部分は将来の不等沈下を避けるため、特に良質土をもってなるべく早急に厚さ3 m以上の盛土を完成させなければならない。

また、この盛土に使用される土の採取場として(図-14)に示す場所が考えられている。この採取場の中には盛土用に不適な土(粘性土)が含まれているが、これらが運搬され盛土されないよう十分な配慮が必要である。また、雨期における盛土工事は避けなければならない。



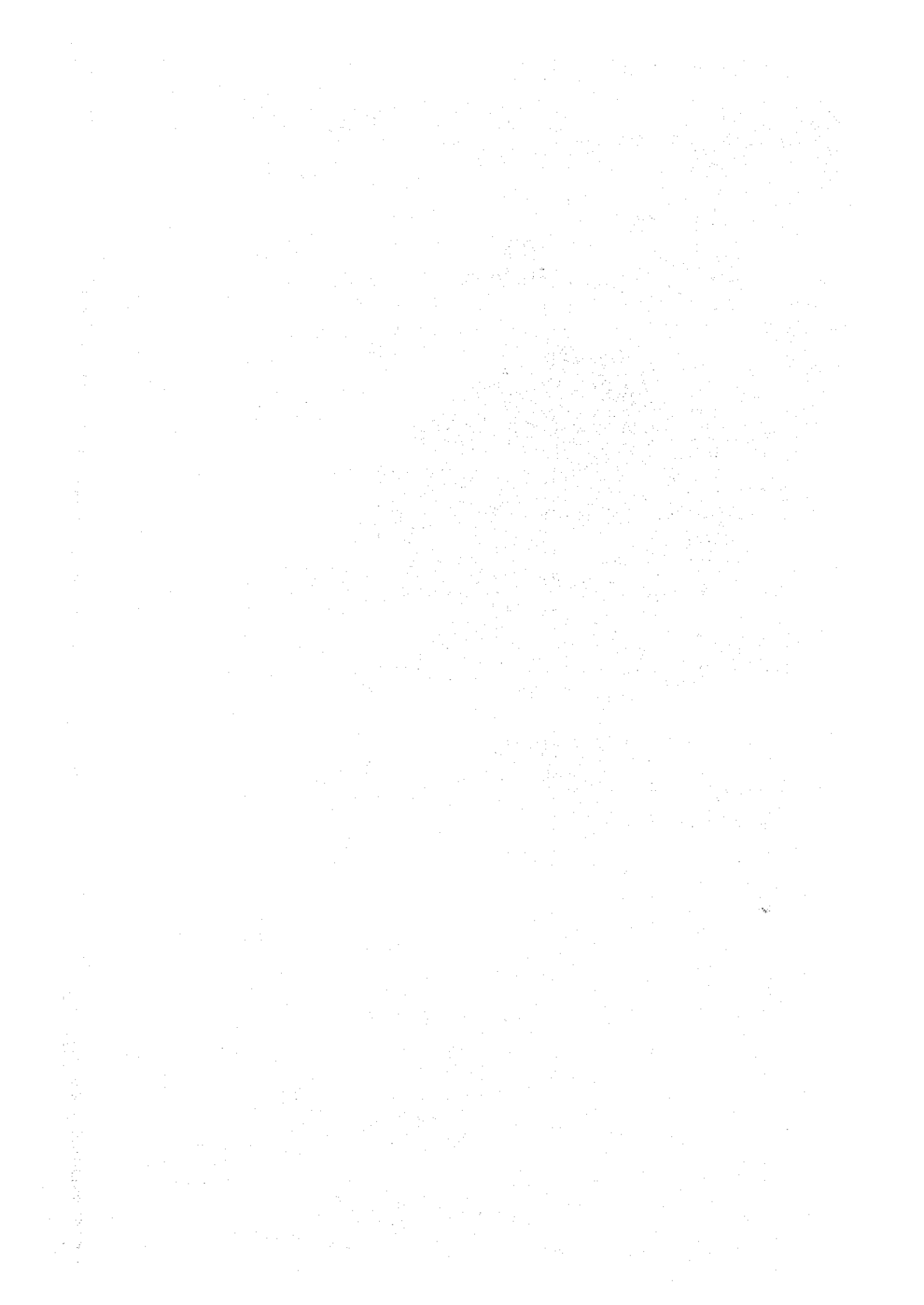
PLACE TO COLLECT FILLING SOIL



		FIRST STEP			SECOND STEP			
		FILLING HEIGHT	AREA	VOLUME	FILLING HEIGHT	AREA	VOLUME	
<b>A</b>		3.0 M	2.0 ha	60,000 <sup>M<sup>3</sup></sup>	—	—	—	
<b>B</b>		2.0	1.3	26,000	—	—	—	
<b>C</b>		0.8	3.0	24,000	1.2 M	2.2 ha	≈ 26,000 <sup>M<sup>3</sup></sup>	
<b>D</b>		—	—	—	2.0	1.2	24,000	
				TOTAL	110,000 <sup>M<sup>3</sup></sup>		TOTAL	50,000 <sup>M<sup>3</sup></sup>
				GRAND TOTAL			160,000 <sup>M<sup>3</sup></sup>	

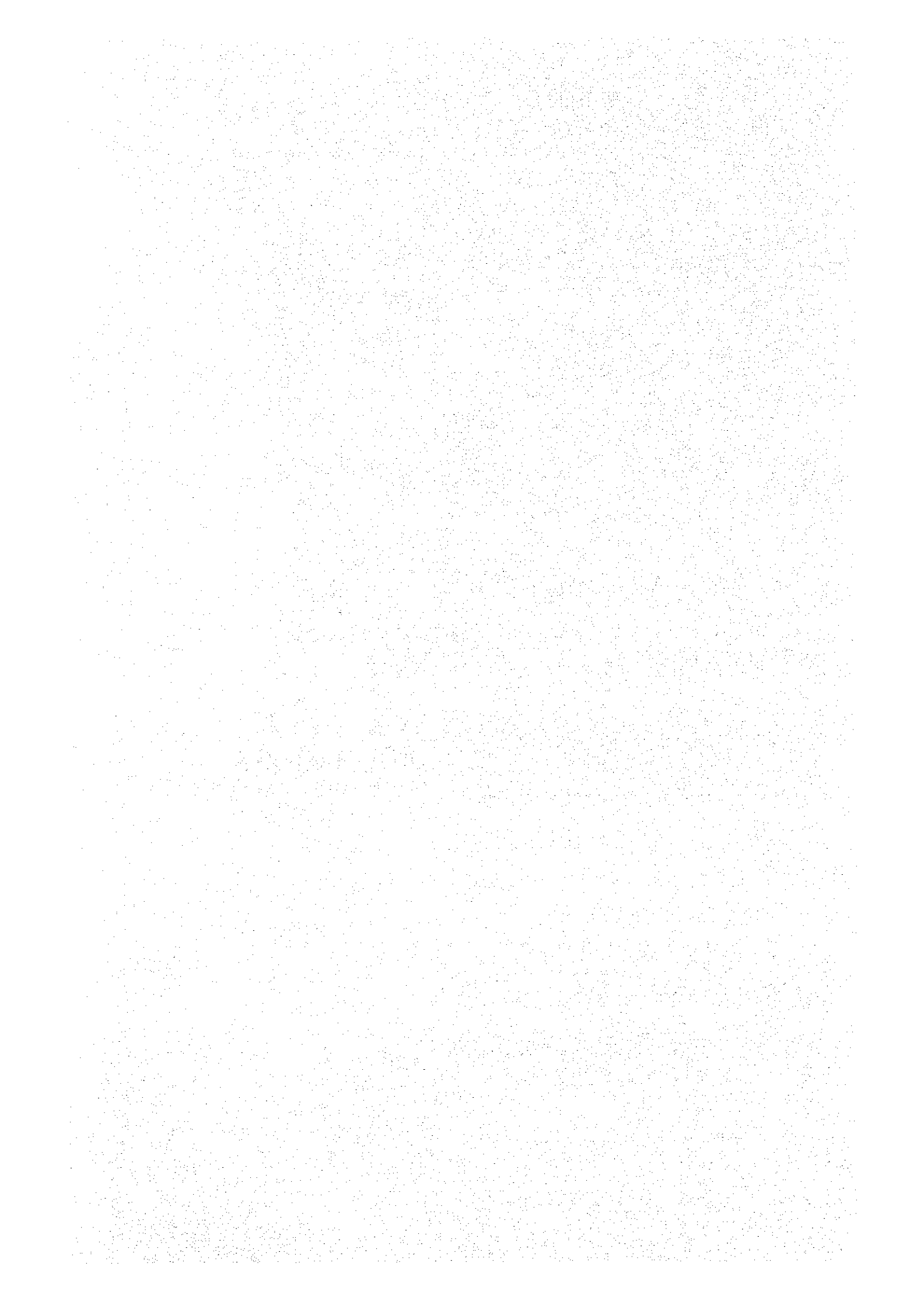


FILLING AND GRADING WORKS



## 第 5 章 專業計畫

- 5-1 實施體制
- 5-2 建設計畫
- 5-3 工事分担
- 5-4 建設工程計畫
- 5-5 維持管理計畫





## 第5章 事業計画

### 5-1 実施体制

#### 5-1-1 実施機関

本センターの実施主体は、保健省スポーツ体育局 ( Ministry of health sports and physical education department : S. P. E. D. ) である。

( 表-7 )

無償援助受入れの窓口は、計画財務省・外国経済関係局 ( Ministry of planning and finance, foreign economic relations department : 略称 F. E. R. D. ) が当る。

本センターの施工は、日本の General contractor が施工業者となり、現地での労務者雇用、資材調達などのほか、一部の下請工事は建設公社 ( Construction Corporation : C. C. ) が、担当する。

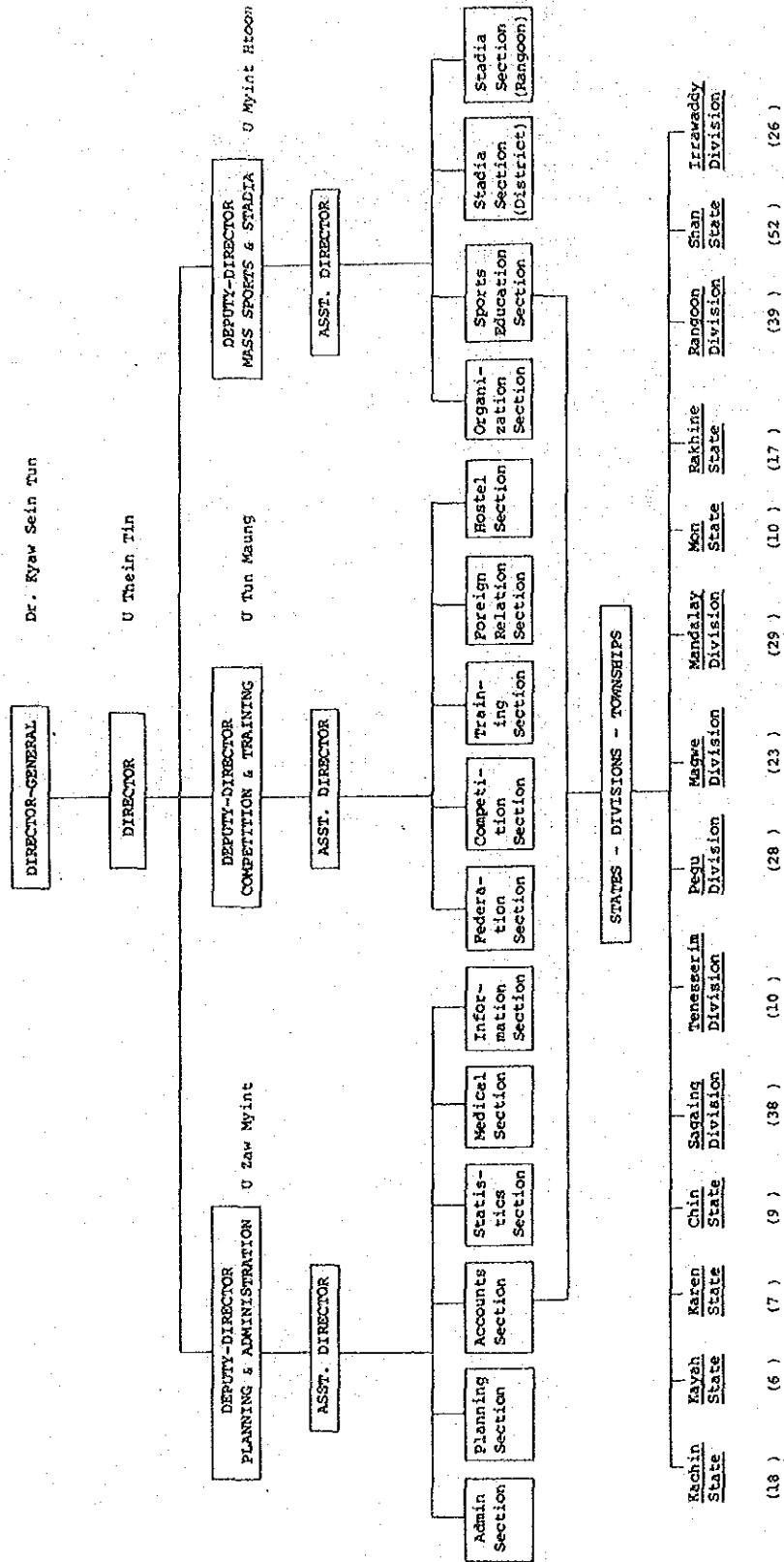
また、本計画の設計、施工段階におけるビルマ国による日本国側に対する便宜供与の内容は以下に示す。

- ① 測量及び地盤状況などの設計に必要な資料の提供。
- ② ビルマ国の陸揚げ港における敏速な積下し、免税、通関、及び無償協力で購入した資材の敏速な国内輸送の確保。
- ③ 日本人に対するビルマ国における関税、内国税及び所得税の免税。
- ④ 日本人が職務遂行のためにビルマ国に入国及び滞在するのに必要な便宜を計る。

#### 5-1-2 要員計画

本センターの施工段階において、円滑な事業の遂行のため、屋内体育館工事における要員計画と同様な体制がビルマ国保健省内に作られなければならない。

表 - 7 ADMINISTRATIVE CHART OF THE SPORTS AND PHYSICAL EDUCATION DEPARTMENT



Denotes Townships

## 5-2 建設計画

### 5-2-1 施工計画

本計画における施工計画上の特色は、巨大なコンクリート建造物をいかに“順調な工程”で“安定した品質”を得るか、にある。この目的のためには以下の各事項が特に重要である。

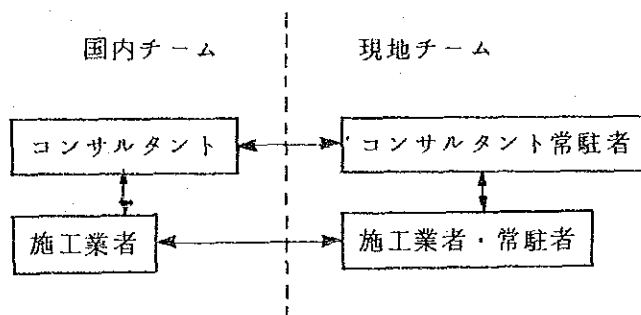
コンクリート打設期間が約15ヶ月におよぶ。その間、平均40m<sup>3</sup>/日のコンクリートを打設しなければならない。このためにセメントが窠業公社より順調に入荷されなければならない。

### 5-2-2 監理計画

監理組織体制としてコンサルタント、建設業者がそれぞれに国内チームと現地チームを作り、施工図のまとめを全て国内チームが行い、現地チームが最終チェックをし、施工に移る体制とする。

設計段階より日本国のコンサルタントが、ビルマ国保健省、その他関係官庁と打合せを緊密に行ない、引続いて監理段階においても経験豊かな常駐者が関係官庁との打合せ、調整などの諸手続きを行う。工事監理に関して品質管理、工程管理を行なうが、本計画は構造的な面での監理が一つの大きな要素となっているため工程に合わせて構造担当技術者の常駐が必要となる。

その他は建築担当技術者が全般を監理する。さらに日本国からも必要に応じ国内チームより技術者を派遣し十分な支援を行って現地の不足をおぎない質の向上を計る。



### 5-2-3 建設資機材の調達

ビルマ国内の建設組織は通常建設公社 (Construction corporation) に限られている。しかしながら本計画は日本のゼネコンによって施工される。

このゼネコンは、建設公社 (CC) をサブコンとして編入し、このサブコンを通してビルマ生産資材および労働力の調達を行うものである。

### 5-3 工事分担

本センターの建設に当り、日本の無償資金協力により準備、施工される範囲とビルマ国側により行なわれる範囲は下記の通りである。

工 事 別	項 目	日 本 国 側	ビ ル マ 国 側
整 地 工 事	敷地の取得		○
	盛土工事・整地工事		○
	仮設のアプローチ道路		○
	仮設工事用地の盛土工事		○
外 構 工 事	敷地周辺の外構、門扉		○
	駐車場		○
	外 灯		○
	排水側溝		○
	道路工事		○
建 築 工 事	スタジアムの構造躯体、仕上工事	○	
	照明塔の躯体、仕上工事	○	
	プラネタリウム構造躯体、仕上工事	○	
	便所の構造躯体、仕上工事	○	
グラウンド工事	トラックおよびフィールドの舗装、排水	○	
電 気 設 備 工 事	受電盤までの電力引込工事		○
	MDFまでの電話引込工事		○
	受変電設備	○	
	自家発電設備	○	
	幹線動力設備	○	
	電灯コンセント設備	○	
	電気時計設備	○	
	テレビ共聴設備	○	
	非常警報設備	○	
	放送設備	○	
	インターホン設備	○	
	避雷針設備	○	
電話交換設備	○		
空 調 設 備 工 事	空調設備	○	
	換気設備	○	

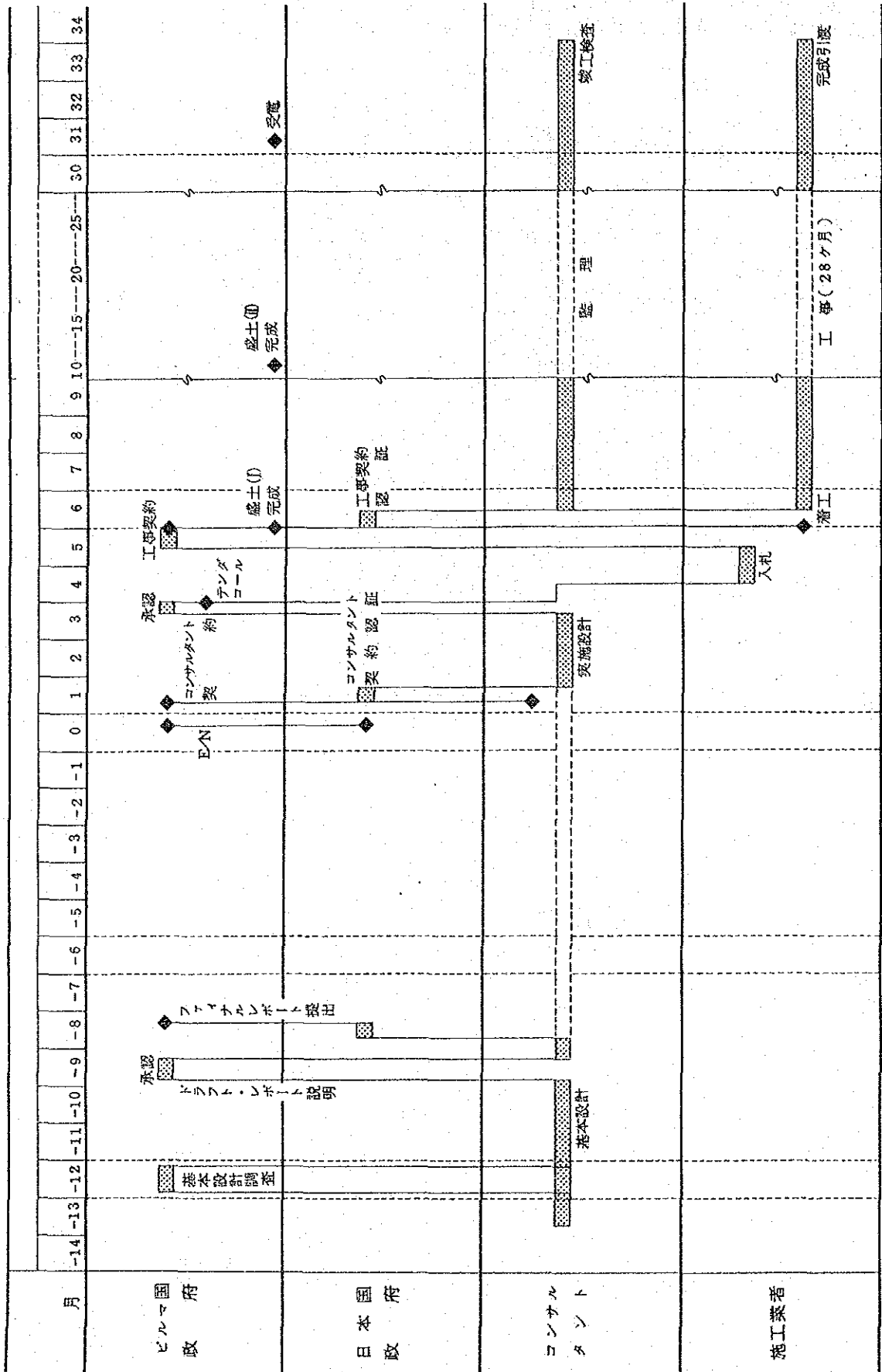
工 事 別	項 目	日 本 国 側	ビ ル マ 国 側
給排水設備工事	上水の敷地への引込工事		○
	敷地内の給水設備一式	○	
	浄化槽以降の敷地外下水本管		○
	浄化槽迄の排水設備一式	○	
	排水処理設備（浄化槽）	○	
	敷地外の雨水排水設備		○
	上水処理設備	○	
	消火用水槽		○
特殊設備工事	夜間照明設備	○	
	屋外競技場用放送設備	○	
	競技用掲示板設備	○	
資 機 材 工 事	運動用具（別紙リスト分）	○	
	プラネタリウム設備	○	
そ の 他 工 事	什器、備品		○
輸 送	ビルマ国までの運送費	○	
	ビルマ国内輸送（港→現場）	○	
	免税および通関手続		○
	輸入資機材のビルマ国内保管		○

ビルマ国負担分工事費概算

1. 整地工事	373百万円
2. 外構工事	590
3. 電気工事	12
4. 給排水工事	105
5. そ の 他	50

1,130百万円

5-4 建設工程計画



## 5-5 維持管理計画

### 5-5-1 要員計画

本センターの維持管理組織は、オンサン競技場の管理組織をもとに新しい施設の特異性を加味して作る必要がある。

表-8にオンサン競技場を参考に本センターの組織および要員を示す。

オンサン競技場は、保健省スポーツ体育局の一部局として維持管理組織が作られている。施設の維持管理は、競技場課の下に土木、電気などの技術部門と管理、門、警備部門があり合計12の係に分かれている。各係には、係長を含めて4人から51人が配員され、合わせて161人となっている。中間管理職を含めると約170人の体制となる。また、グラウンド係には51人のほかに40人の臨時作業員が見込まれている。

本センターは、オンサン競技場の一般的施設のほかに下記の特異施設が加わり、新しい維持管理体制が必要である。

(建物関係)……………図書室、展示室

(グラウンド関係)……………アスファルト系全天候トラック、競技機材

(電気関係)……………スコアボード、エレベーター

(設備関係)……………上水処理装置、排水処理装置

(プラネタリウム関係)……………投影装置

本センターでは、オンサン競技場の組織に図書、展示部門、プラネタリウム部門および競技機材部門が加わる。

図書室および展示室には、円滑な運営を計るために特別な技能をもった司書および説明者が配員され、プラネタリウムには、天文学に精通した解説者、技術者および製作者が配員され、競技機材部門には訓練された係員が配属される。

人員構成について、オンサン競技場を参考に前述の図書、展示、プラネタリウム、競技機材の各係を独立して組織し、合わせて24人を配置する。競技トラックは、アスファルト系全天候舗装となるため、オンサン競技場に比べて維持管理が容易となり、グラウンド系の管理要員を減らすことができる。また、本センターはオンサン競技場に比べて約半分の施設規模であり、さらに維持管理の容易な施設を計画しており、他の係についても要員を削減できる。したがって、維持管理要員として132人、中間管理職を含めると約140人の体制となる。

本センターの円滑な運営と、長期にわたる施設の機能維持のために、表-9に示す維持管理組織と配員の体制を作る必要がある。

表-8 本センターおよびオンサン競技場の組織

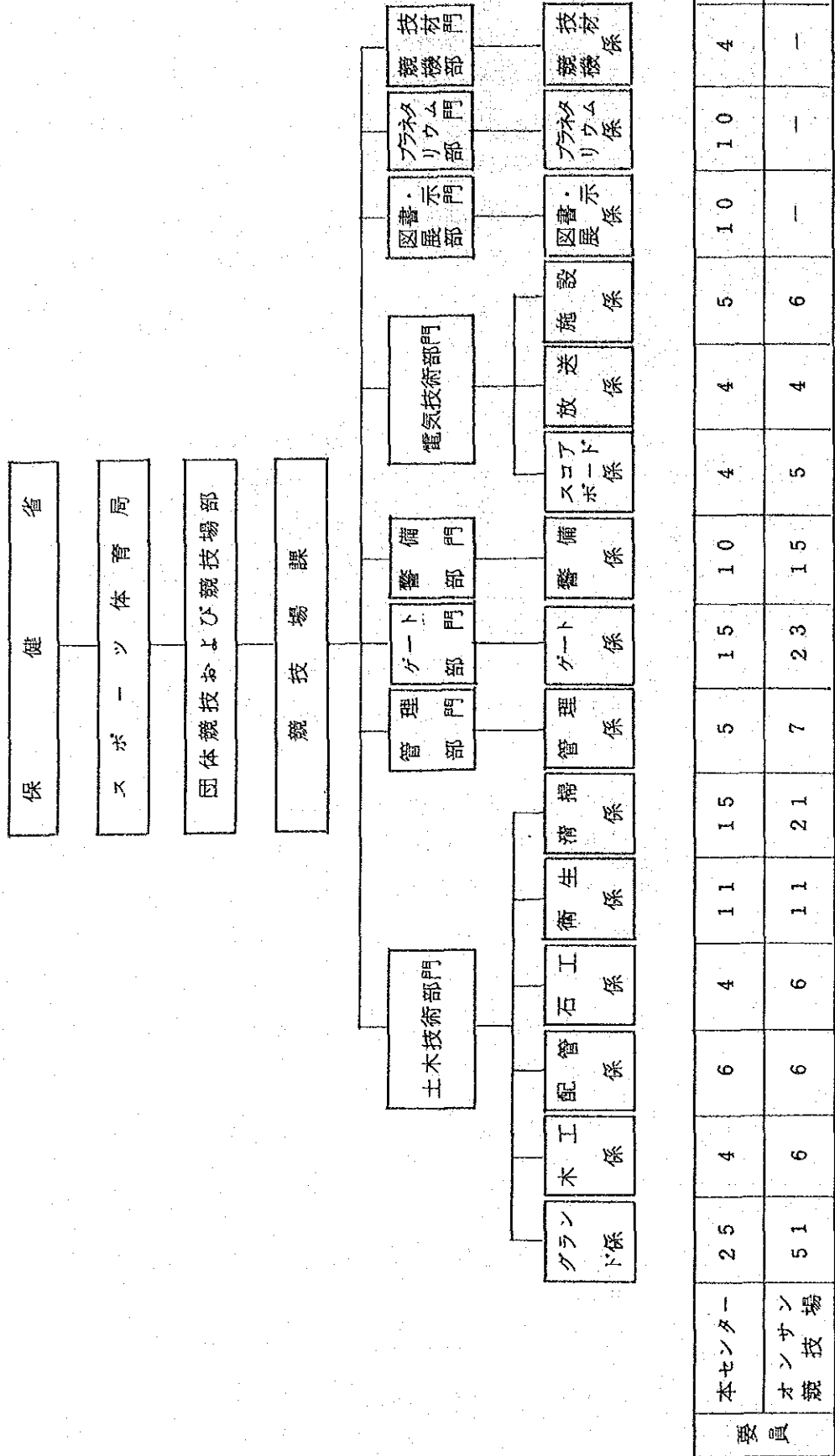
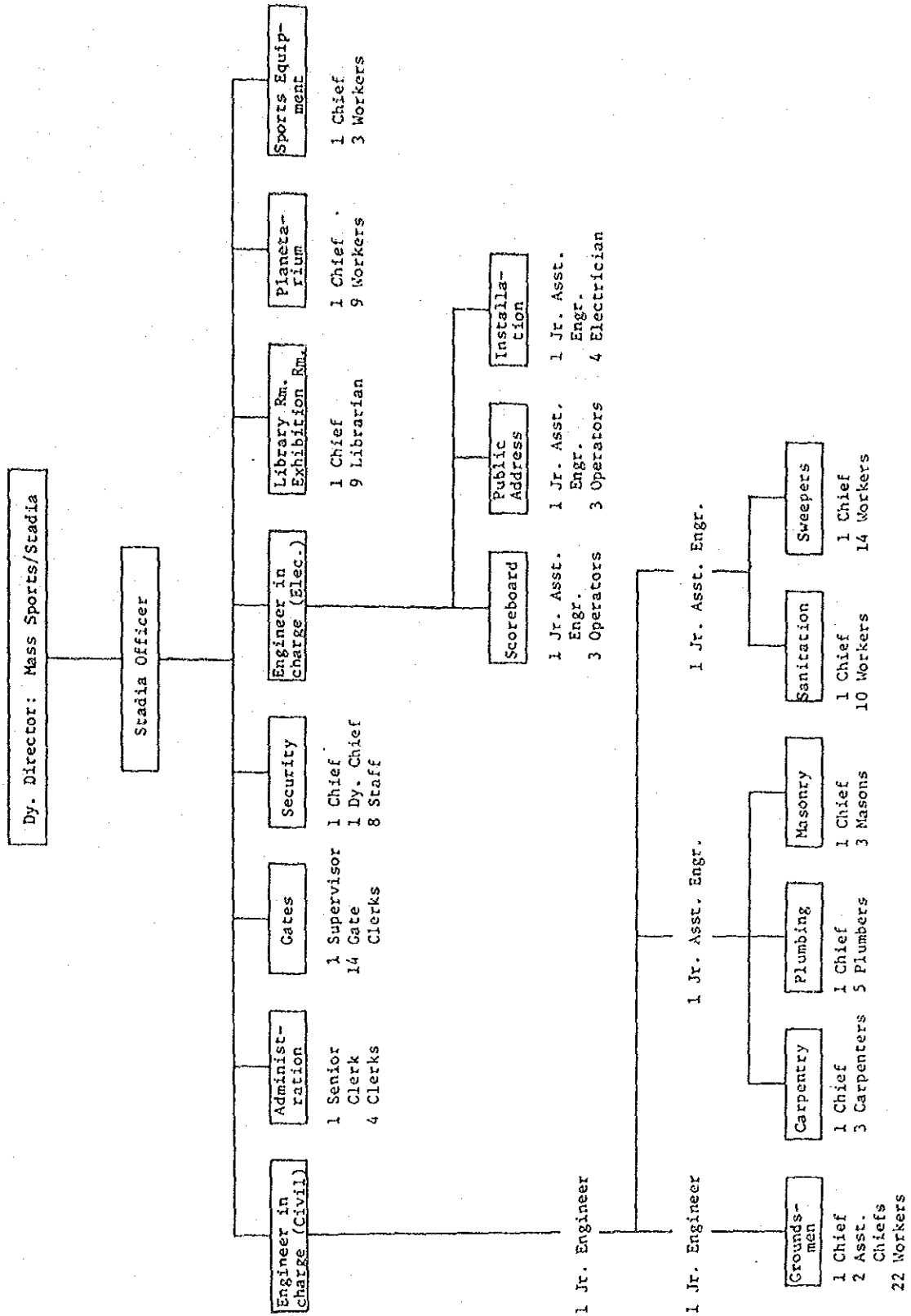




表-9 青少年教育センターの配員計画



## 5-5-2 維持管理費用

本センター運営開始後、維持、管理に要する費用を毎年の支出と、2～10年毎の長期補修費とに区別し算出する。

### (1) 毎年の支出

オンサン競技場の実績(1982/1983)をもとに、本センターの費用を算出する。(表-10)

スタンド施設運転費について、本センターは夜間照明および冷房設備の充実等、電力費用がオンサン競技場に比べ大巾に増加するものと予想される。

スタンド保守修繕費について、建築計画上、塗装・修繕費を極力押さえる建築材料を使用し、精度の高い施工を行う。

スポーツ施設維持における年間のトラック補修費は、一般的にウレタン系全天候舗装を1とすると、シンダー入りクレーは3～8となっているが、オンサン競技場は極端に低額である。これは、規定の維持管理がなされていないためと思われる。青少年に対する陸上競技のレベル向上を目指し、さらにSEA GAMESをはじめ国際陸上競技会を開催できるような施設とするには、適正な維持費をかける必要がある。

人件費については、要員計画で詳述したように、オンサン競技場に比べて維持管理要員が削減できる。

表-10 毎年の支出

(単位：K1,000)

項 目		維持管理費		
		本センター	オンサン 競技場	
1	スタンド施設運転費	電気	140	75
		油	10	10
2	スタンド保守修繕費	建築清掃	20	20
		塗装	100	75
		修繕		150
		電気設備点検修理	50	45
		機械設備点検修理	50	45
		トラック補修	50	20
3	スポーツ施設維持費	フィールド補修	30	30
		競技施設用具補修	10	10
1～3 小 計		460	480	
4	プラネタリウム運転費	光熱費	15	
5	プラネタリウム維持費	建築清掃修繕	10	
		機械設備点検修理	1	
		電気設備点検修理	7	
		投映機設備点検修理	12	
4～5 小 計		45		
6	*人件費(事務・技術・職員)	280	334	
6 小 計		280	334	
(1)	1～6 計	785	814	

\* オンサン競技場の実績から、1人当りの人件費は

約2,000K/年によって

オンサン競技場 2,000K/年・人×167人=334,000K

本センター 2,000K/年・人×140人=280,000K

(2) 長期補修費

施設を長期にわたって効率的かつ経済的に維持するために、定期的な補修を行う必要がある。

表-11は、長期補修費を毎年の支出として換算したものである。

(1)毎年の支出、(2)長期補修費より本センターの維持管理は、

$$785 + 262 = 1,047,000K$$

この支出をまかなう予算は、スポーツ体育局 ( SPED ) の年間予算の中に組込まれるが、その財源の一部はオンサン競技場の入場料収入である。

1983年度の収入は、2,500,000 K

オンサン競技場の支出は、人件費を除くと480,000 K、人件費を加えると814,000 Kである。

本センターは青少年のための教育施設であり、多額の入場料収入は見込めないが、ビルマ国の計画では、休日の有料競技 ( 50試合/年、1.5 K/席 ) において年間収入額は

$1.5 K \times 1,000 \text{席} \times 50 \text{試合} = 750,000 K$

となる。

表-11 長期補修費

(単位: 1,000 K)

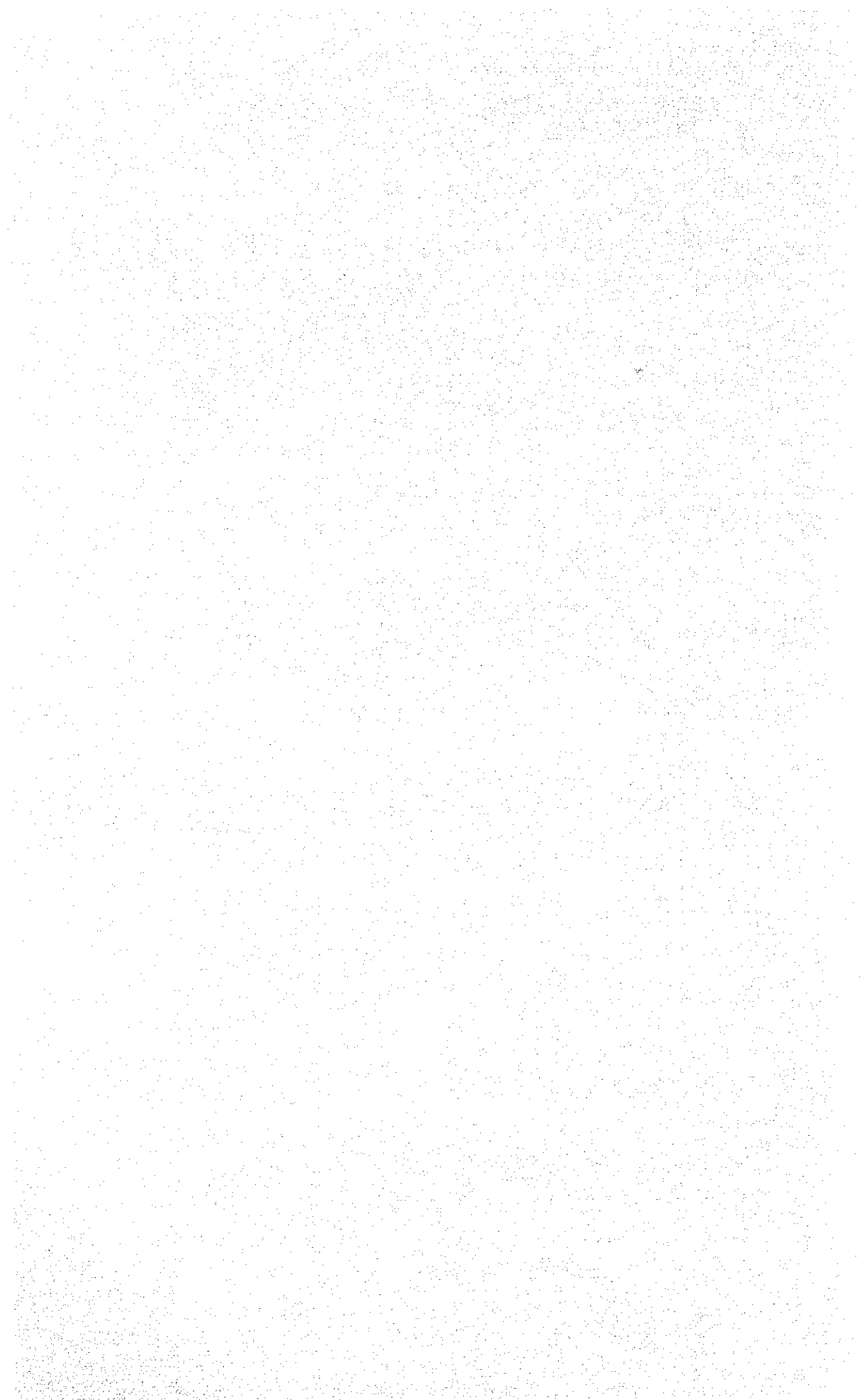
項	目	補修頻度	補修費	
			1回の費用	年換算
1 建築関係	鉄部の塗装	2年毎	300	150
	建築関係調整・修理・塗装	2年毎		
	漏水部修理	2年毎		
	クラックその他	2年毎		
2 グランド・スポーツ用具関係	トラックの大補修	5年毎	50	10
	芝生の全面張替え	5年毎	60	12
3 電気・機械機器関係	電気設備機器類の交換	5年毎	150	30
	空調設備機器類の交換	8年毎	120	15
	換気設備・ポンプの交換	10年毎	100	10
	給排水設備装置の交換	10年毎	200	20
	プラネタリウムのオーバーホール	10年毎	100	10
4 プラネタリウム関係	冷房機器の交換	8年毎	40	5
(2)	1~4 計			262

オンサン競技場と本センターは、どちらもスポーツ体育局 ( SPED ) Mass sports & Stadia 部に属するため、収支決算は両施設を合算することになる。

(単位: 1,000 K)

施設	収入	支出
オンサン競技場	2,500	814
本センター	750	1,047
計	3,250	1,861

## 第6章 事業評価



## 第6章 事業評価

ビルマ国政府は、教育政策には特に力を注いできた。初等教育における就学率、国民の識字率は、東南アジア地区発展途上国のなかでとりわけ高い水準を示している。

この高い教育水準の中で、体育教育の実施訓練の分野においては著しく遅れているといわざるをえない。これは、体育施設の貧困さに起因するものである。

現在ビルマ国にあるオンサン競技場、チャイカサン広場、大学の運動場などは、ほとんど各種選手権試合、民族祭典、大学対抗競技会などの使用に供されている。すなわち本センターは、青少年がその体育活動の成果を国際水準の場において、あるいは全国規模における競技会において発表し、練磨できる唯一の場であり、プラネタリウム、その他の教育施設と合わせて全国青少年の集まる場となり、ビルマ国の青少年に多大の効果を及ぼす。

この効果について、定量的な把握はできないが、直接的な効果と、社会的な間接的効果を含め、主な項目を以下に示す。

- (1) 屋外競技場の利用者……陸上競技試合の場合、選手数最大1,000人程度まで利用できる。又、サッカー試合の場合、夜間も含め1日4試合まで可能である。観客席は17,000席を設けている。
- (2) 図書室、講義室、集会室は、学習室として常に500人以上の青少年が利用できる。
- (3) プラネタリウムは、ビルマ国初の施設である。200席をもち、ビルマ国全土の小、中、高校生550万人が、11年の在学中、1度は入場できることになる。
- (4) 屋外競技場グラウンドには照明設備を設けている。これによってグラウンドの利用時間は1日3～4時間延びこの時間帯に行なわれる試合等はテレビでも放映でき、来場できない多くの青少年にも観戦の機会が与えられる。
- (5) ラングーン市は、現在旧市街を中心に主として北の方にのび、東側、特に当ツワナ町は開発から取り残されてきた。本計画の実現にともない、鉄道（ラングーン～マンダレー線、ラングーン環状線）の充実、駅舎の整備を始め、道路網、電力、上下水道の整備が計られる。

又、水辺公園を含む緑地のネットワークを市全体に広げる構想があり、Nga Mo Yeik River（ガモエ）川沿いに展開する本公園計画地は、この構想の要となると思われる。

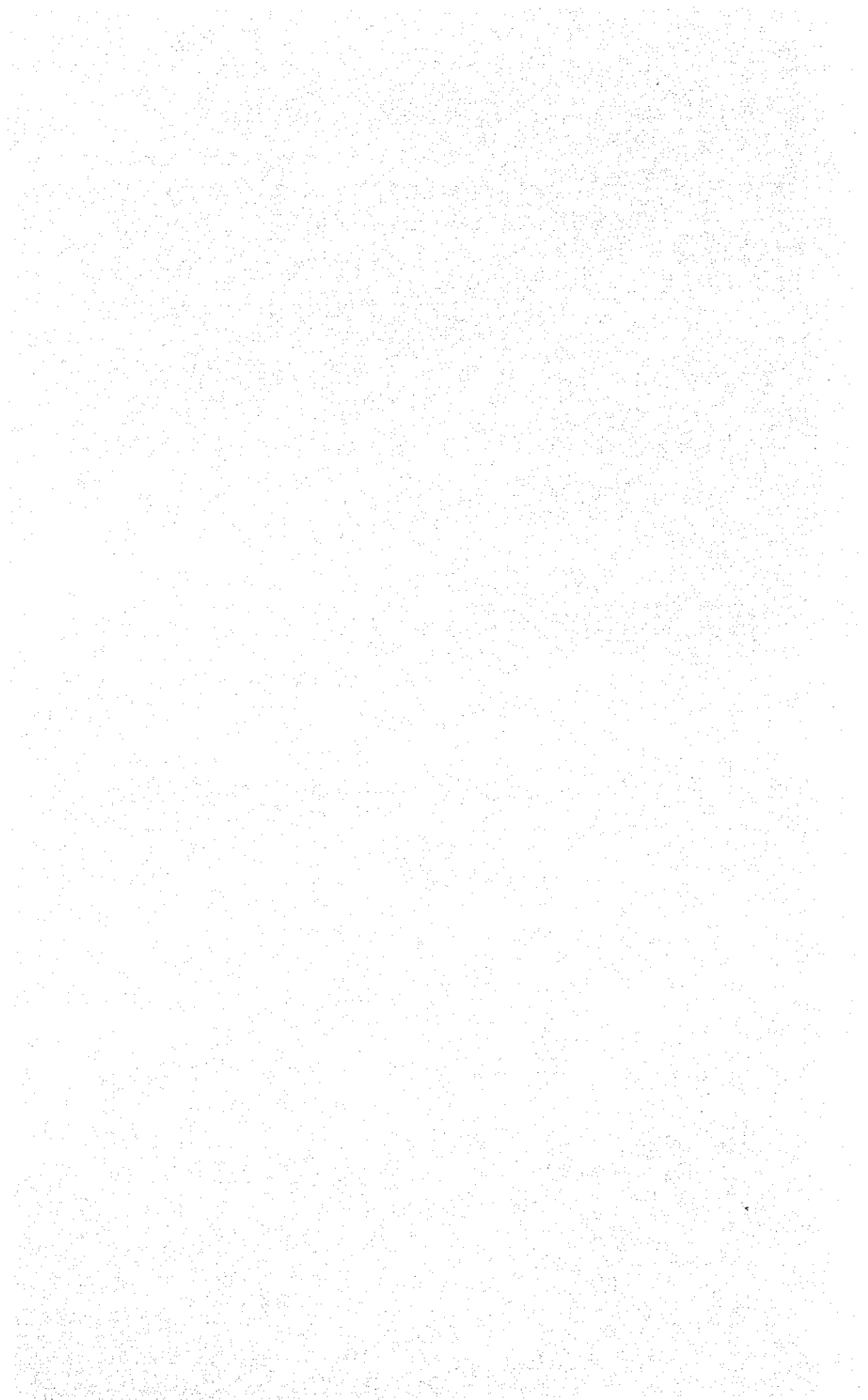
このように本計画が完成すると当地区を中心とした新しい都市核がラングーン市に加わることになり、市全体の生活環境の向上にも大いに寄与する

ことになり。

以上述べてきたように、本計画の実施は直接的には、体育、自然科学教育施設の建設により、多くのビルマ国青少年が体育実地教育、自然科学体験教育の場を与えられることにより、多大の効果がある。さらに間接的には青少年だけにとどまらず、市民全体の生活環境の向上にも効果を及ぼす。



## 第7章 結論、提言



## 第7章 結論、提言

ビルマ国の青少年の教育育成の各部門のうち、特に施設面で不足している。そのため体系的な訓練育成が充分なされていなかった体育教育、自然科学教育の分野に対し、本計画に示すような青少年教育センターが実現されれば、多くの青少年による施設の有効利用が期待できる。また、前章に述べたような間接的な効果もある。

本計画の実施は、将来のビルマ国を担う人づくり計画であり、わが国の無償資金協力として妥当である。

日本国政府の速やかな対応が望まれる。

また、本計画の実施にともない、以下の各項目を提言する。

### (1) 運営、維持要員を選定すること。

本センターはビルマ国に既に設けられている施設、機材以外の運営、管理経験を持たない新規の施設機器を含んでいる。

主なものは

- ・ 全天候型トラック
- ・ 体育機材
- ・ プラネタリウム機器 である。

これらの施設機材を運営、維持するために必要な要員を予め選定し、配置した体制を整えなければならない。

### (2) 維持管理について予算措置を構じておくこと。

本センターの維持管理費用については、第5章に詳述した。この中で、本センターの維持管理費用の一部はオンサン競技場の入場料収入に依存している。

### (3) オンサン競技場の入場料収入は、一担国庫に納入され、その後保健省スポーツ体育局予算として各競技場維持管理費用に分配されるものである。したがって、本センターの維持管理費は、運営開始に先立って試算され、予算化されていなければならない。

### (4) オンサン競技場との間で、利用対象者およびスケジュールについて十分な調整を計ること。

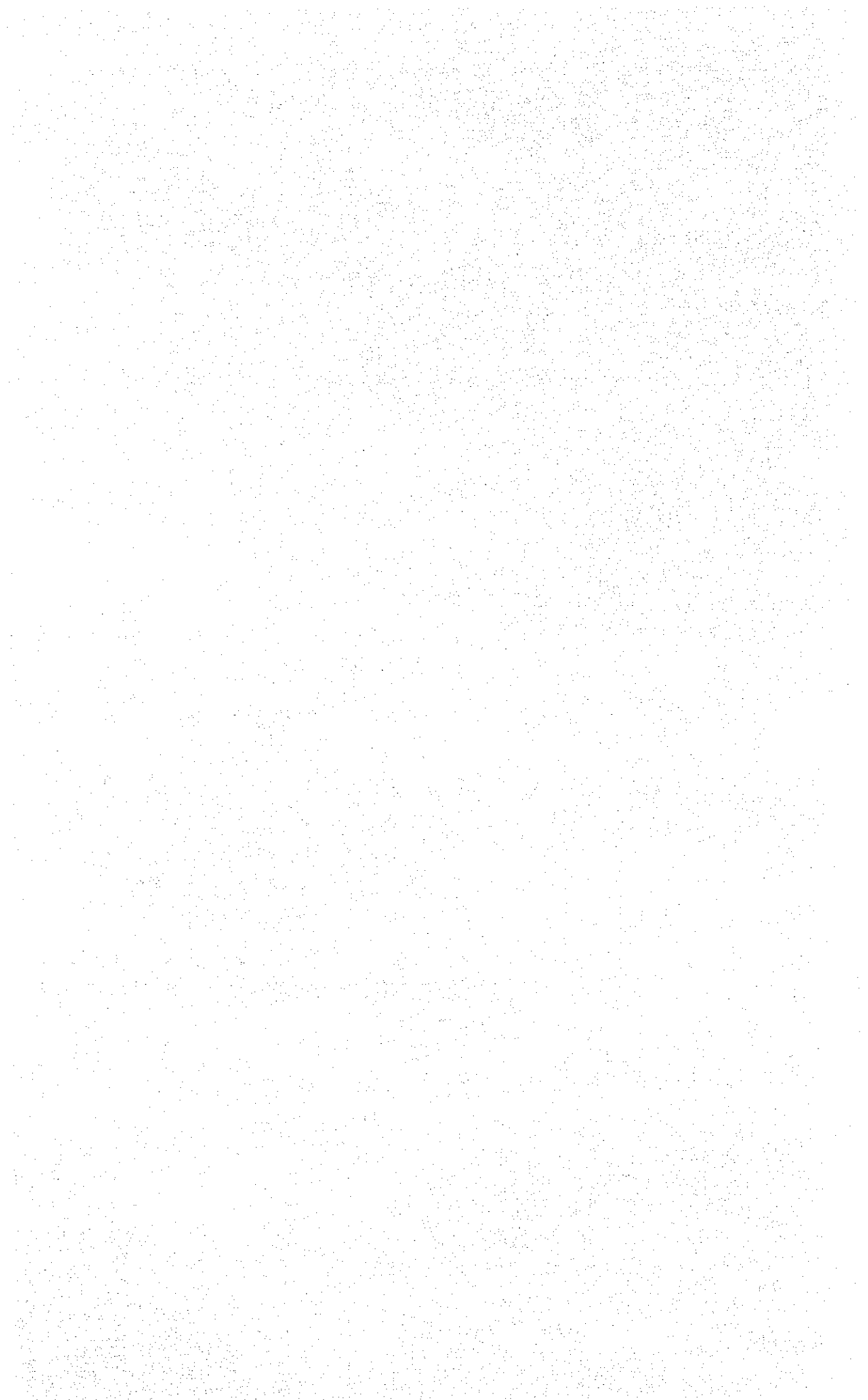
本センターの体育部門は、青少年の教育施設を目的としている。したがって、利用対象者、開催競技会の設定にあたっては、以下の区別がある。

- ・ オンサン競技場は、成年、一流競技選手などの利用、国際競技会、国内選手権、州管区対抗戦などの開催が主となる。
- ・ 本センターは、小、中、高校青少年が主に利用し、体育教育、学校対抗戦などが開催される。



## 資 料 編

- 資－1 調査団員の構成
- 資－2 調査日程
- 資－3 ビルマ国側関係者
- 資－4 討議議事録
- 資－5 ビルマ国の“青少年教育センター”に対する理念
- 資－6 地盤調査資料
- 資－7 オンサン競技場の管理組織図
- 資－8 国立屋内体育館の管理組織図



資一1 調査団員の構成

(1) 基本設計調査団員の構成

団 長	山 縣 光 晶	総 括	外務省経済協力局 経済協力二課課長補佐
副団長	四 釜 嘉 総	計 画 管 理	国際協力事業団 無償資金協力部基本設計課
団 員	永 田 一 雄	建 築 計 画	(株)日本設計事務所
団 員	六 鹿 正 治	建 築 設 計	(株)日本設計事務所
団 員	真 喜 志 卓	構 造 計 画	(株)日本設計事務所
団 員	岡 田 有 弘	設 備 計 画 (空調・衛生)	(株)日本設計事務所
団 員	箕 浦 秀 夫	設 備 計 画(電気) 機 材 計 画	(株)日本設計事務所
団 員	横 松 宗 治	積 算 競 技 場 計 画	(株)日本設計事務所

(2) ドラフトレポート説明調査団員の構成

団 長	今 津 武	総 括	国際協力事業団 無償資金協力部基本設計課 課長代理
団 員	永 田 一 雄	建 築 計 画	(株)日本設計事務所
団 員	横 松 宗 治	積 算 競 技 場 計 画	(株)日本設計事務所

資一2 調査日程

(1) 基本設計調査

日 程	事 務		内 容	
	午 前		午 後	
6月3日 (金)	山県団長(外務省)東京発		山県団長バンコク着	
4日 (土)	*団員チーム(1) 東京発		団員チーム(1) バンコク着	
5日 (日)	タイ国立競技場視察(団長、副団長、 団員チーム(1))		タイ国青少年福祉センター視察(団長、副団長、団員(1)) 山県団長、四釜副団長(JICA)及び団員チーム(1)バン コク発ラングーン着	
6日 (月)	大使館表敬 *JICA表敬		SITE視察 大使館打合せ *FERD表敬	
7日 (火)	*SPED打合せ(at SPED)		SPED、*CC打合せ(at SPED)	
8日 (水)	SPED打合せ(at SPED)		SPED、教育省打合せ(at SPED)	
9日 (木)	SPED打合せ(at SPED)		SPED、教育省打合せ(at SPED)	
10日 (金)	SPED、FERD、CC打合せ (at SPED)		ラングーン大学図書館視察 ミニッツ原稿検討 *団員チーム(2) 東京発バンコク着	
11日 (土)	タイ国立競技場視察(団員チーム(2)) タイ国青少年福祉センター視察(団 員チーム(2))		SPED打合せ(at SPED) 団員チーム(2)バンコク発ラングーン着	
12日 (日)	SPED、CC打合せ(at INDOOR STADIUM SITE) SITE調査		ラングーン市内視察 団内打合せ	
13日 (月)	SPED打合せ(ミニッツについて at SPED)		SPED打合せ(ミニッツについて、at SPED) ミニッツ署名	
14日 (火)	大使館表敬(経過報告) JICA表敬(経過報告)		山県団長、四釜副団長ラングーン発バンコク着 CC打合せ(at CC)	
15日 (水)	SPED打合せ(at SPED) 採土場(1)調査		CC打合せ(at CC) レンガ工場視察 コンクリート試験所視察	
16日 (木)	CC打合せ(at SITE) SITE調査 SPED打合せ(at SPED)		SITE周辺調査 *EPC、*PTC打合せ(各々at EPC、PTC)	
17日 (金)	採土場(2)調査 SPED打合せ(at SPED)		CC打合せ(at CC) 気象庁打合せ(at DMH)	
18日 (土)	*GHR建設現場視察		サッカー試合及運営状況視察(at オンサンスタジアム) 水上スポーツ施設視察(at INYALAKE) 団内打合せ	
19日 (日)	国立博物館視察 資料整理		ラングーン市内文化、科学、教育施設視察 団内打合せ	



日 程	事 務 内 容	
	午 前	午 後
20日 (月)	TV及びバイオメディカル施設視察 アスファルト舗装工場調査 SITE及びSITE周辺調査	CC打合せ(at CC) SITE調査
21日 (火)	CC打合せ(at CC) 第1工業省打合せ(at第1工業省)	SPED打合せ(at CC) チャイカサン、体育施設視察 土質試験所、建設材料試験所視察
22日 (水)	大使館表敬(経過報告、帰国挨拶) JICA表敬(経過報告、帰国挨拶)	団員チーム(1)、(2)ラングーン発バンコク着
23日 (木)	団員チーム(1)、(2)バンコク発	団員チーム(1)、(2)東京着

(2) ドラフト説明調査

日 程	業 務 内 容	
	午 前	午 後
9月 2日 (金)	成田発	バンコク発
3日 (土)		バンコク発 ラングーン着 SPED 打合せ
4日 (日)	敷地調査	調査団内打合せ
5日 (月)	大使館、JICA訪問、報告	SPED 訪問 主要点説明
6日 (火)	SPED 訪問 説明協議	SPED 訪問 説明協議
7日 (水)	SPED 訪問 説明協議	SPED 訪問 説明協議
8日 (木)	SPED 訪問 説明協議	SPED 訪問 説明協議
9日 (金)	SPED 訪問 ミニッツ署名	SPED 訪問 大使館、JICA訪問、報告
10日 (土)	調査団内打合せ	ラングーン発 バンコク着
11日 (日)	バンコク発	成田着

(注：\*)

団員チー△(1) 永田、六鹿 計2名

“ (2) 真喜志、岡田、箕浦、横松 計4名

JICA Japan International Cooperation Agency  
FERD Foreign Economic Relations Department  
SPED Sports and Physical Education Department  
CC Construction Corporation  
GHR General Hospital in Rangoon  
EPC Electrical Power Corporation  
PTC Post and Telecommunication Corporation

資-3 ビルマ国側関係者

o SPED (SPORTS AND PHYSICAL EDUCATION DEPARTMENT)

Dr. Kyaw Sein Tun	DIRECTOR-GENERAL
U Thein Tin	DIRECTOR
U Myint Htoon	DEPUTY-DIRECTOR MASS SPORTS & STADIA
U Tun Maung	DEPUTY-DIRECTOR COMPETITION & TRAINING
U Zaw Myint	DEPUTY-DIRECTOR PLANNING & ADMINISTRATION
U Tin Maung Swe	FOREIGN RELATIONS OFFICER
U Myint Han	SECTION HEAD STADIUM PLAYGROUND SECTION
U Hoke Sein	CONSTRUCTION MATERIAL CLEARANCE & TRANSPORTING OFFICER NATIONAL INDOOR STADIUM I PROJECT CHIEF COACH (T&F)
U Tin Aung	STADIA OFFICER

o CC (CONSTRUCTION CORPORATION)

U Win Kyu	STAFF OFFICER (1)
U Aung Myint	STAFF OFFICER (1)
U San Pe	STRUCTURE ENGINEER STAFF OFFICER (2)
U Hla Baw	QUANTITY SURVEYOR STAFF OFFICER (2)
U Shwe Tun Maung	STAFF OFFICER (2)
U Myint Aung	ELECTRICAL ENGINEER STAFF OFFICER (3)
Daw San Yee	QUANTITY SURVEYOR STAFF OFFICER (3)
Daw Han Kyi	SANITARY ENGINEER STAFF OFFICER (3)
U Aung Hla	QUANTITY SURVEYOR
Daw Si Than	QUANTITY SURVEYOR
U Shwe Win	STRUCTURAL ENGINEER
Mr. Mazumda	SOIL ENGINEER
U San Myint	STRUCTURE ENGINEER
U Tha Ka Doe	WATER SUPPLY & SANITARY ENGINEER

U Nay Soe Naing

CONSTRUCTION ENGINEER  
INDOOR STADIUM

U Aung Kyaw Myint

CONSTRUCTION ENGINEER  
GENERAL HOSPITAL IN RANGOON

o FERD (FOREIGN ECONOMIC RELATIONS DEPARTMENT)

U Thein Myint	DIRECTOR GENERAL
U Khin Maung	DEPUTY DIRECTOR GENERAL
U Myint Htoo	DEPUTY DIRECTOR

o CIC (CERAMIC INDUSTRIES CORPORATION)

U Nyunt Hlaing	DIRECTOR (PLANNING)
U Win Maung	ASSISTANT DIRECTOR EXPORT DEPARTMENT

o ME (MINISTRY OF EDUCATION)

U Ohn Khin	INSPECTOR OF SCHOOLS BASIC EDUCATION
------------	---

o IBD (INFORMATION AND BROADCASTING DEPARTMENT)

U Nyi Win	SENIOR SUPERVISORY ENGINEER (TELEVISION)
-----------	---

o DMH (DEPARTMENT OF METEOROLOGY AND HYDROLOGY)

U Sein Shwe U	DIRECTOR
---------------	----------

o EPC (ELECTRIC POWER CORPORATION)

U Yan Naing

EXECUTIVE ENGINEER

o PTC (POST & TELECOMMUNICATION CORPORATION)

U Shwe Win

ENGINEER

資—4 討議議事錄 ( 基本設計調查 )

MINUTES OF DISCUSSION

ON

THE YOUTH TRAINING CENTRE CONSTRUCTION PROJECT

IN

THE SOCIALIST REPUBLIC OF THE UNION OF BURMA



## C O N T E N T S

Minutes of Discussion	Page	1
Attachments	Page	2
Location Map	Page	3
Site Location	Page	4
Annex II	Page	5
Annex III	Page	6
Annex IV	Page	7

MINUTES OF DISCUSSION  
ON  
THE YOUTH TRAINING CENTRE CONSTRUCTION PROJECT  
IN  
THE SOCIALIST REPUBLIC OF THE UNION OF BURMA

In response to the request made by the Government of the Socialist Republic of the Union of Burma for the Youth Training Centre Construction Project in Rangoon, Thuwanna area, Thingangyun Township (hereinafter referred to as "THE PROJECT") the Government of Japan, through Japan International Co-operation Agency (JICA), has dispatched a Basic Design Study Team headed by Mr. Mitsuaki YAMAGATA, Deputy Director, 2nd Economic Co-operation Division, Ministry of Foreign Affairs (hereinafter referred to as " THE TEAM ") to conduct the Basic Design Study on the Project from June 5th to June 22nd, 1983.

The Team has carried out a field survey, had series of discussions and exchanged views with the Burma Government Authorities concerned of the Project.

As a result of the study and discussions, both parties have agreed to recommend to their respective Governments to examine the results of the study attached herewith towards the realization of the Project.

山根 光 白  
13/13

( MITSUAKI YAMAGATA )  
Team Leader  
Survey Team

*Kyaw Sein Tun*

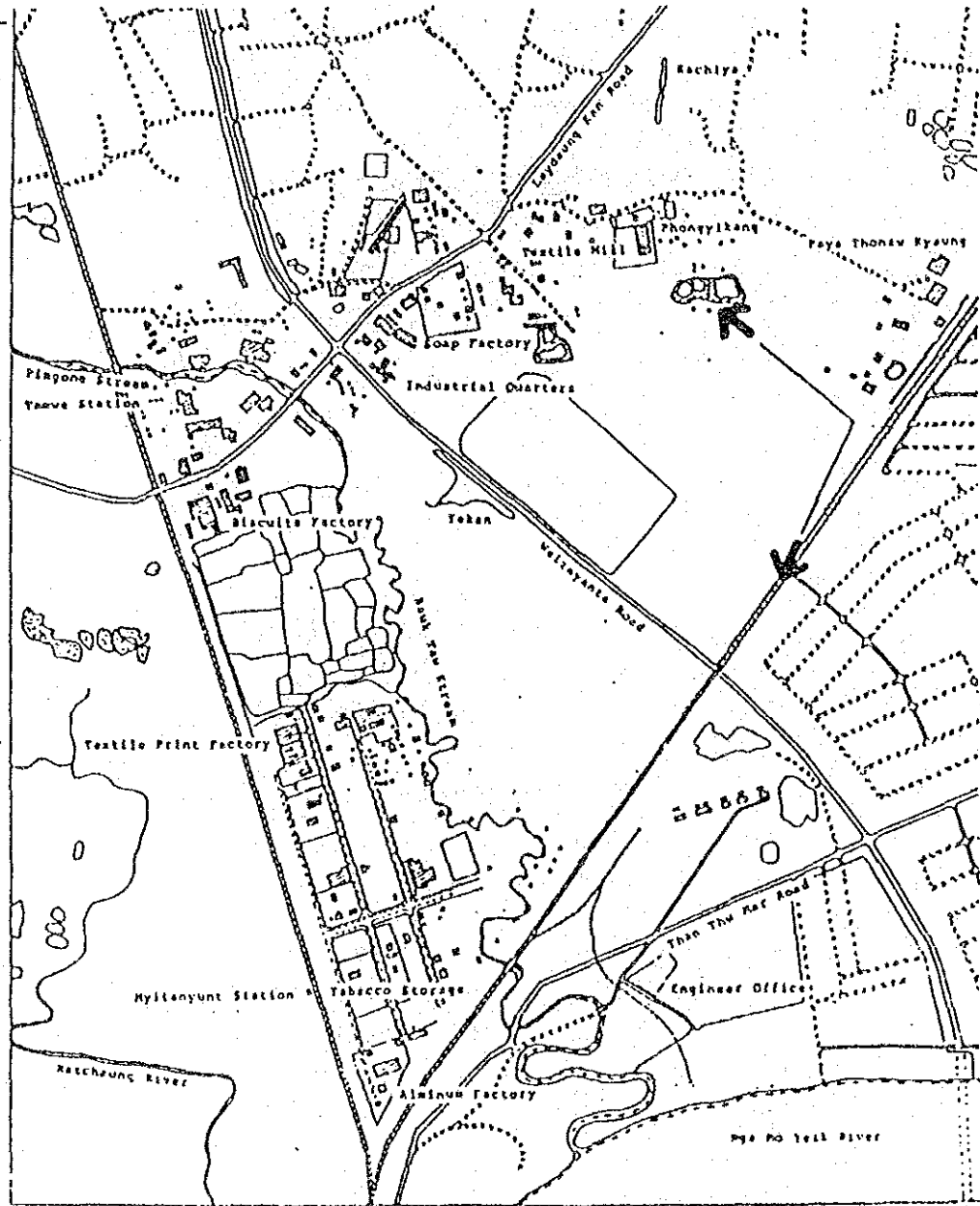
(COLONEL KYAW SEIN TUN)  
Director-General  
Sports and Physical Education  
Department  
Ministry of Health

Rangoon, June 13th, 1983.

## ATTACHMENTS

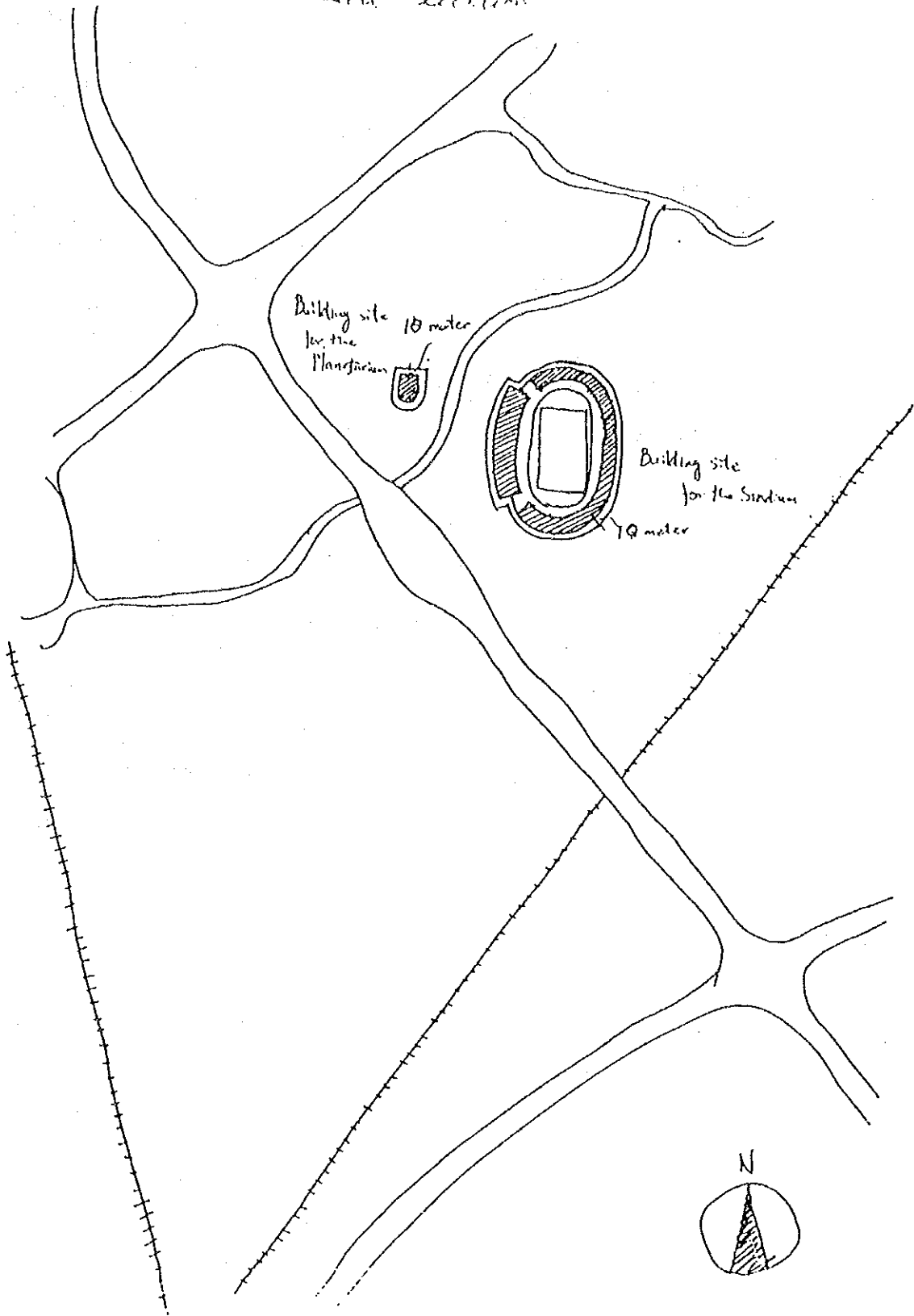
1. The objective of the Project is to provide necessary buildings, facilities and equipment for construction of the Youth Training Centre, the purpose of which is:-
  - (a) To serve as the centre for youth physical, scientific education and other youth activities.
  - (b) To contribute to the intellectual and physical development of the youth.
2. The proposed site of the Project has been acquired by the Government of Burma (hereinafter referred to as ("THE PROJECT SITE")) as attached in Annex I.
3. Implementation body of the Project in Burma will be the Sports and Physical Education Department, Ministry of Health.
4. The Japanese study Team will convey to the Government of Japan the desire of the Government of Burma that the former takes necessary measures to co-operate in implementing the Project and provides the training facilities and other items as listed in Annex II within the scope of the Japanese Economic Co-operation in grant form.
5. The Government of Burma has understood Japan's grant aid system explained by the Team which includes a principle of use of a Japanese Consultant Firm and a Japanese General Constructor for implementation of the Project.
6. The Government of Burma will take necessary measures as listed in Annex III on condition that the grant assistance by the Government of Japan is extended to the Project.

Annex I  
Location map



Annex I-1

site location



ANNEX II

Items required by the Government of Burma whose cost will be borne by the Government of Japan:-

1. Construction of the Youth Training Centre
  - A. Stadium with Track and Field
    - (a) Grand Stand (capacity about 10,000 people)
    - (b) Back and side Stands (capacity about 7,000 people)
    - (c) Structure of the Stands: Frame structure
    - (d) Track - En - tout - cas surface
  - B. Planetarium
    - (a) Dome
    - (b) Equipment.
  - C. Facilities under the Grand Stand of the Stadium in order of priority.
    - (a) Exhibition room
    - (b) Library room
    - (c) Lecture hall and Meeting room
    - (d) Physical training room
2. Equipments necessary for the facilities mentioned in 1 (A, and (C, .

ANNEX III

The following arrangements will be required to be taken by the Government of Burma:

1. To provide necessary data for basic design such as land survey and condition of sub-soil as soon as possible.
2. To carry out site preparation such as clearing, levelling, reclamation and access road before commencement of construction works.
3. To provide facilities for distribution of electricity, water supply, drainage, telephone lines and other incidental facilities to the proposed building site.
4. To ensure prompt unloading, tax exemption, Customs clearance at ports of disembarkation in Burma and prompt internal transportation therein of the products purchased under the grant.
5. To exempt Japanese nationals from Customs duties, internal taxes and other fiscal levies which may be imposed in Burma under the verified contracts.
6. To accord Japanese nationals whose services may be required in connection with the supply of the products and the services under the verified contract such facilities as may be necessary for their entry into Burma and stay therein for the performance of their work.
7. To maintain and use properly and effectively that the facilities constructed and equipment purchased under the grant.
8. To undertake incidental civil works such as gardening, fencing, gates, exterior lighting and parking area.
9. To furnish general furniture in the centre.
10. To perform land reclamation to secure 150<sup>m</sup> x 200<sup>m</sup> temporary work plaza adjacent and accessible to the building site and Wayzayanda public road.

\* NOTE The building site is to cover the ground of the building itself and up to 10 metres around the building.

ANNEX IV

1. In the discussion between the Japanese Basic Design Study Mission and the Burmese Officials concerned, there were the following requests from the Burmese side, in response to the explanation of the general profile of the proposed project :-

- (a) Expanding the roof of the Grand Stand so that it would cover up to the seats of the lowest level (closest to the Track and Field).
- (b) Enlarging the size of the planetarium dome so that it could contain 200 seats.

Against the above-mentioned request from the Burmese side, the Japanese Mission replied that it would be very difficult to meet such a request due to various reasons, and maintained its original idea of :-

- the roof of the Grand Stand that would cover approximately half of the total number of seats on the Grand Stand, and
- the planetarium with a 6 meter diameter dome.

2. In the same discussion the Japanese Mission mentioned the importance of land-fill as soon as possible and in response to this, the Burmese side assured that it would try its best.



討議議事録（ドラフトレポート説明調査）

MINUTES OF DISCUSSION

ON

THE DRAFT REPORT OF THE BASIC DESIGN STUDY

ON

THE YOUTH TRAINING CENTRE PROJECT

MINUTES OF DISCUSSION

THE DRAFT REPORT OF THE BASIC DESIGN STUDY

ON


THE YOUTH TRAINING CENTRE PROJECT

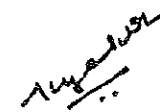
The Government of Japan has sent, through Japan International Co-operation Agency ( JICA ), a Basic Design Survey Team to the Socialist Republic of the Union of Burma from 3rd to 10th September 1983 for the purpose of presenting and explaining the draft of Final Report of the Basic Design Study (the Report) on the Youth Training Centre Project in the Socialist Republic of the Union of Burma (the Project).

The Team held meetings with the Burmese officials to explain and discuss on the Report. As a result of the discussions, both parties have confirmed the following items:-

1. The Report in principal satisfied the Burmese Side and appropriate alterations in design agreed during the discussion will be incorporated in the Final Report.

2. On the scale of the Grand Stand roof and Planetarium which had been remained for discussion, both sides confirmed as follows:-
- (a) The Grand Stand roof would cover one-half of the stand.
  - (b) Planetarium building would contain about 200 seats, of which dome would be 12 meters in diameter.
3. The Final Report (15 copies in English) on the Project will be submitted to the Government of Burma by the end of November 1983.
4. The Burmese Side understood the system of Japan's Grant Aid Programme and especially the arrangement to be taken by the Burmese Side for realization of the Project.

  
(TAKESHI IMAZU)  
Team Leader  
Survey Team

  
(DR. KYAW SEIN TUN)  
Director-General  
Sports and Physical Education  
Department  
Ministry of Health

Rangoon, September 9th, 1983.

IDEAS FOR A "YOUTH TRAINING CENTRE" IN BURMA

Sports, Physical Education and Youth Promotion in Burma are getting more State interest and public interest than ever before.

The public's interest in and expectation for youth's physical training and education are soaring again because of the poor showings of the Burmese athletes at the recent international competitions.

About a decade ago the prominence of the Burmese Sportsmen were among the top-bests in Asia. The Burmese National Football Team was almost a non-pareil team of Asia, which was even praised as Brazil of Asia.

The past fame of our national sports glory really started with the success of the Burmese Youth Football Team. It was in 1961-62 Asian Youth Football Tournament that the National Youth Team achieved the first international sports glory for Burma. Later on these young sportsmen further attained an incredible success, creating a sensational record of winning the five major soccer championships of Asia in the same year. It is the truth that the Burmese Youth footballers, once the most successful sportsmen of Asia, have faded away during the last decade. So was with the Track and Field athletes of Burma in South East Asia. As such an analytical comparison of "A decade of success" and "A decade of failure" has aroused more public and state interest than ever before to encourage the Youth Sports Movement more.

On the educational side, the Ministry of Education in collaboration with the "Lanzin Youth Organisation" ( National Youth Organisation ) has been successfully implementing a new successful educational system over the last two decades.

But the demand for an ever-increasing interest and need for the successful training of young people of Burma for their

physical education and physical prowess cannot be met with till now because of the insufficiency of sports facilities and equipment.

As the saying goes "A sound mind in a sound body", the physical fitness should precede the mental efficiency of the young people, before they reach a balanced level for both.

It is also both necessary and desirable for all citizens to enjoy various athletic activities in order to improve physical fitness and mental alertness so as to work even more efficiently for the common good of the nation and human society as well.

To materialize the above aims it must be based first on and begin again with the Youth of the nation. It is the utmost urgent and immediate question at present in Burma that a new way should be paved to promote and energize the athletic activities of all kinds so that sports, physical education and recreation will not only uplift the moral and all round education for the youth but also to become a way of life for the new young generation of Burma.

Since the first general discussion held between the officials of the Japanese Embassy and the Sports and Physical Education Department on 12th January 1983, it has been extensively discussed regarding the proposal of a "Youth Training Centre" for Burma. Both sides have mutually agreed that the proposed project should neither be confined to the construction of an Outdoor Stadium for competition purposes alone nor for Recreation alone.

It should have a broader concept than the usual nature of a competition stadium. It should aim at mainly to concentrate on the general training and development of the Youth of the nation, both for physical and intellectual purposes.

It is therefore agreed that the purpose of the project should be :-

- To serve as the centre for Youth Physical Education and other Youth activities.
- To contribute to the intellectual and physically development of the Youth.

While going through the general outline of the " Youth Training Centre Project " the Burmese Sports and Physical Education authorities have made the following alternative suggestions about the description of the Project :-

- (1) The size of the Outdoor Stadium should be increased to cover a capacity of 70,000-75,000 instead of 50,000, if possible.
- (2) A sports museum should be added so as to keep the records of the achievements of the Young Burmese Sportsmen as well as to exhibit it as an incentive for the coming new generation.
- (3) The proposed Gymnasium should be excluded from the Project as a 10,000 capacity National Indoor Stadium is already under construction with the aid of the Government of the Peoples' Republic of China.

It is hoped that the consequential question of " Why Burma needs such a large Outdoor Stadium ?" will be justified with the following ideas for the Outdoor Stadium :-

- (1) As Article (10) of the Constitution of the Union of Socialist Republic of Burma states, "The State shall provide physical and mental development of the Youth", the Outdoor Stadium

of the Youth Training Centre Project will best serve multipurposely for the all round development of the Youth, which can be utilized also as a "Youth Training School."

- (2) The existing Aung San Stadium, the only one of its kind in Burma so far, with a capacity of 35,000 people is so much and all the time occupied with the various kinds of competitions ranging from Township, Departmental and Ministerial to National tournaments that it can hardly provide any special favour for the training and promotion of the Youth.

At present, the Aung San Stadium can only give (11) days for Inter-States and Divisions School Sports Championships while Inter-University and Colleges Championships get only (8) days.  
(Please see Annexure).

- (3) With the new large Outdoor Stadium, Burmese Students will be even able to enjoy such kinds of National Youth Festivals and Regional Youth Festivals. Burma will become even very proud to host " International Youth Festivals ". Occasionally it could also help to accept International Tournaments which Burma is unable to do so at present due to the limited accomodation problem of Aung San Stadium.
- (4) Hence the " Youth Training Centre Project " will play such an important and eminent role in creating and developing a new generation of the Burmese Youth and Students.

- (5) A planetarium should also be given priority in addition to other necessary facilities since it is an Educational Training Tool which can provide an excellent programme for hundreds of students each year.

All model students, student-sportsmen, labour-giving students etc., who come down to Rangoon can get the best chance of scientific training through the planetarium.

The planetarium is an excellent laboratory for analysing the technique of scientific thinking.

It would be very much appreciated if the "Youth Training Centre Project" could be implemented as proposed and discussed between the representatives of the two countries.

The Burmese Sports and Physical Education authorities not only thank the Japanese Government but are also very much pleased to have a series of frank and friendly discussions with the Japanese Preliminary Survey Mission regarding the Youth Training Centre Project. It is also very much appreciated to have a mutual basic agreement concerning the Youth Training Centre Project. Although the Burmese authorities have expressed the ideas and facts concerning the new Project candidly, they hold the view that the Japanese Preliminary Survey Mission will submit the matter to the Japanese Government in detail so that the Japanese Government can conduct her best.



資—6 地盤調查資料

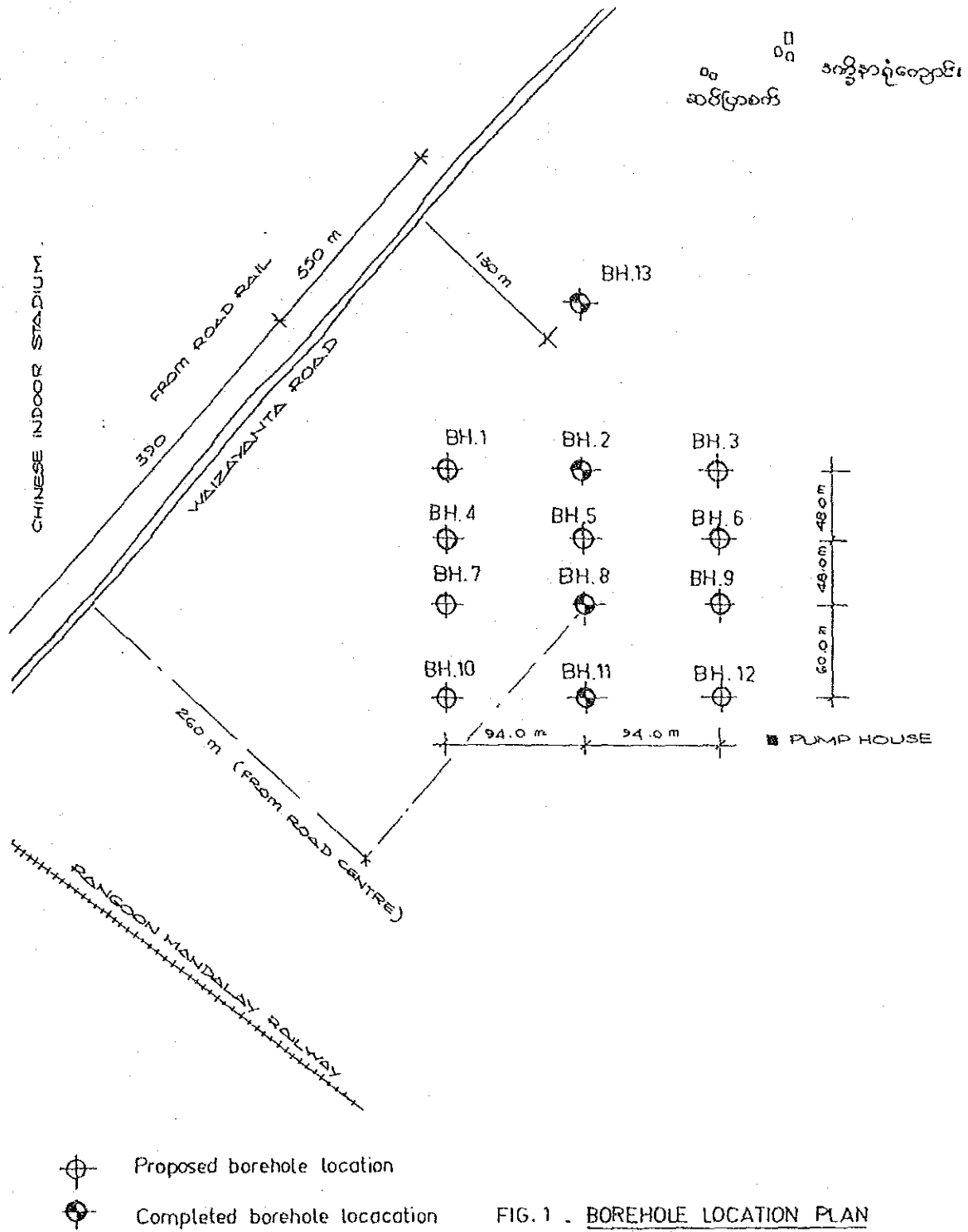


FIG. 1 . BOREHOLE LOCATION PLAN  
YOUTH TRAINING CENTRE  
THUWUNNA, RANGOON

Scale. 1" = 300'

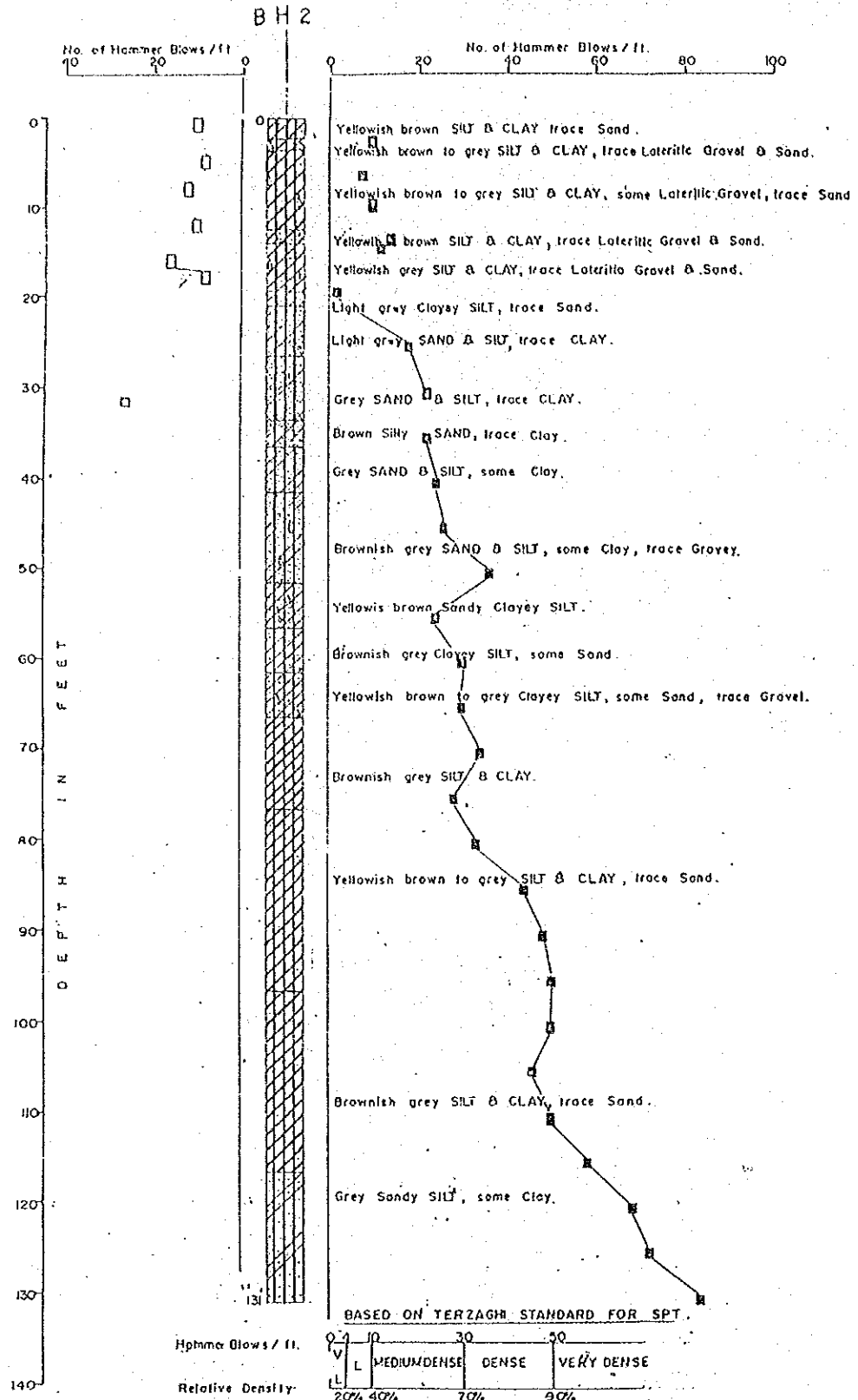


FIG 2.1 PROFILE OF BORE HOLE

YOUTH TRAINING CENTRE, THUWUNNA, RANGOON  
 DRAWN BY SANH MYINT, CHECKED BY KAN AYE (S.O. III)  
 DATE, AUGUST, 1963

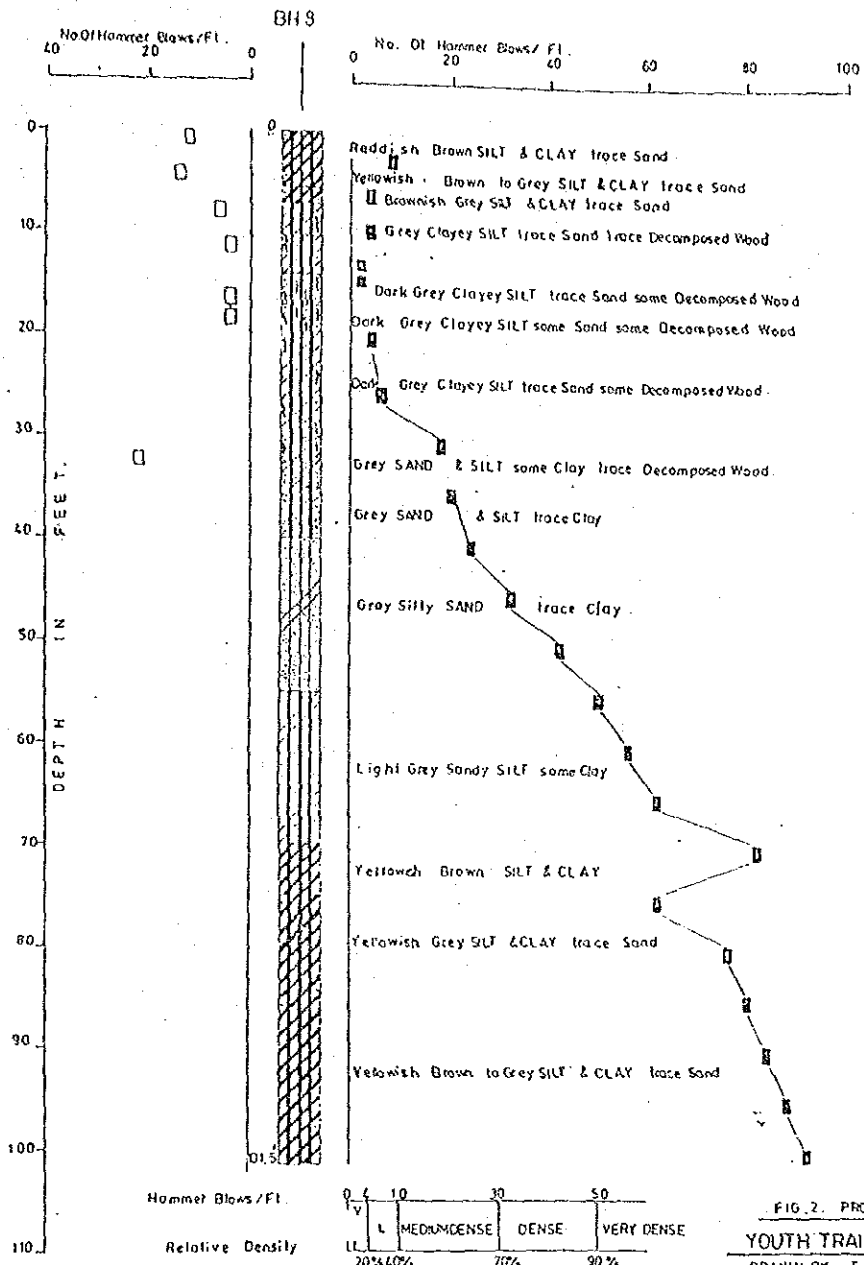


FIG. 2. PROFILE OF BOREHOLE  
 YOUTH TRAINING CENTRE, THUYUNNA  
 DRAWN BY... T.T.H., CHECKED BY... KAN AYE ISO  
 DATE, AUG. 1963

**LEGEND FOR SAMPLING**  
 [ ] DIN WALL STANDARD SHELBY SAMPLER DRIVEN WITH 140 LBS HAMMER DROP 30"  
 [ ] STANDARD SPUT. SPOON DRIVEN WITH 40 LBS HAMMER DROP 30"  
 SCALE, V. 1" = 10' (DEPTH)

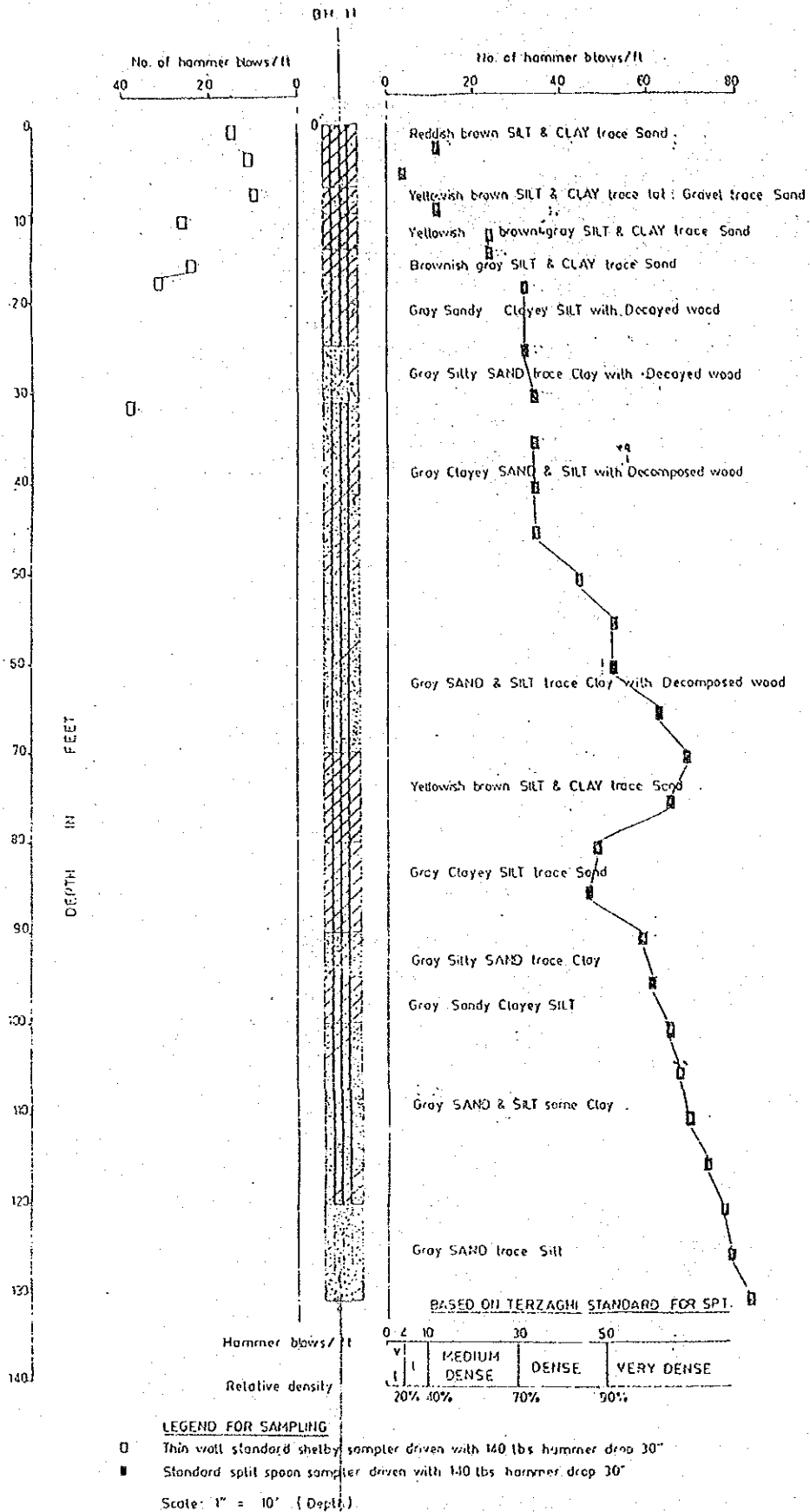


FIG. PROFILE OF BOREHOLE  
 YOUTH TRAINING CENTER, THRUWUNIA  
 Drawn by Win Cho, checked by Kan Aye (s.o.m.)  
 Date September, 1983

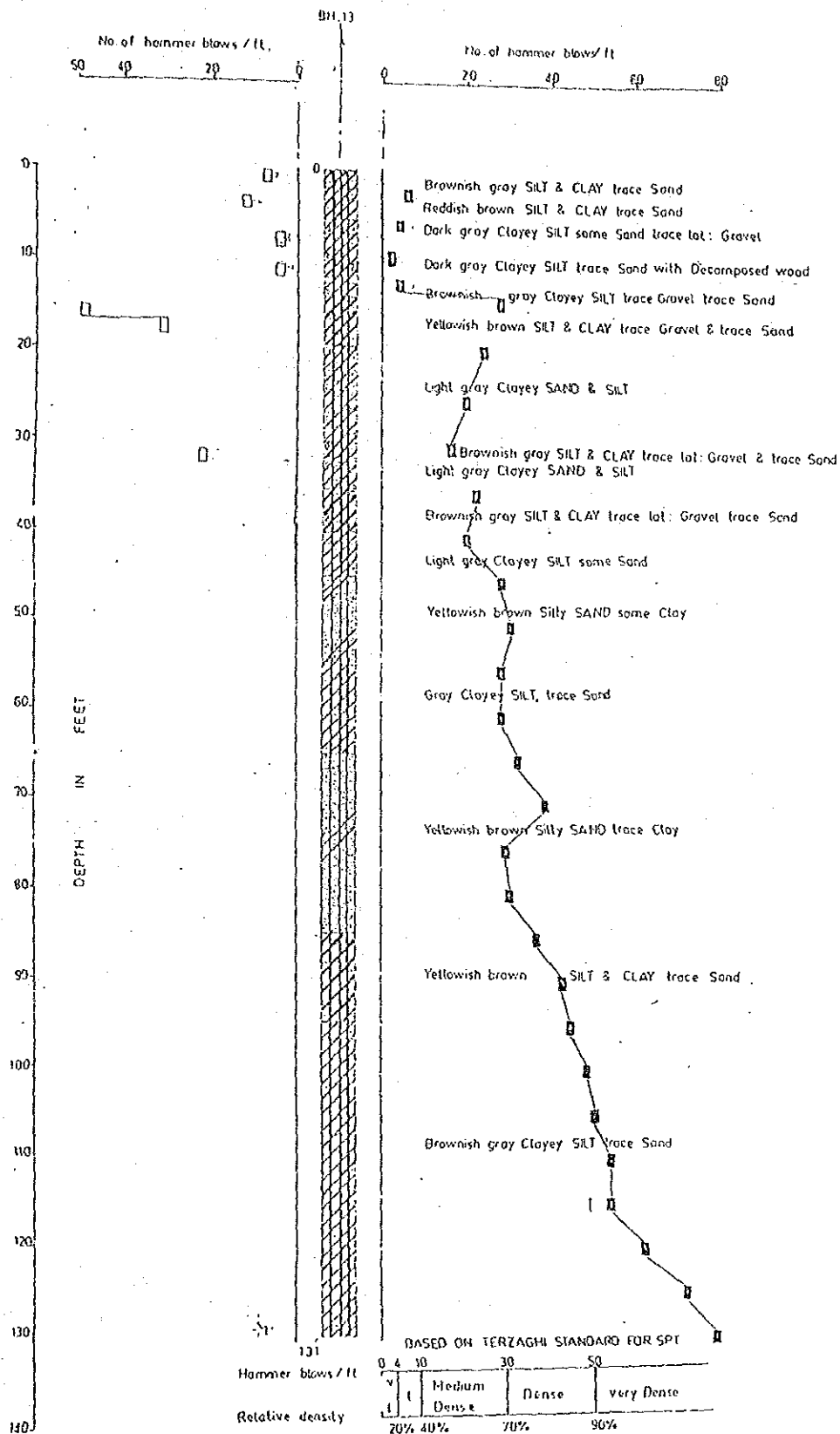
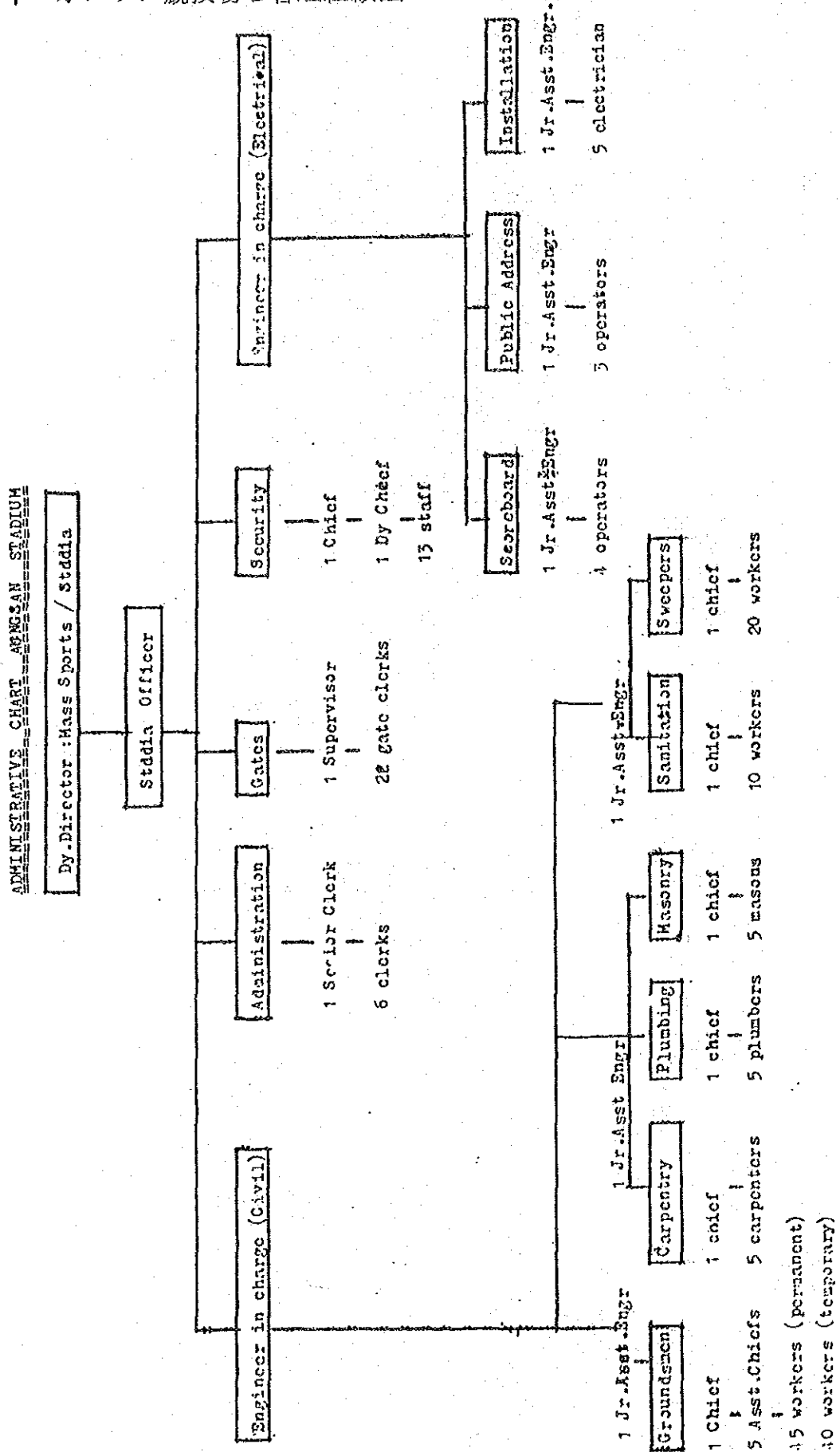
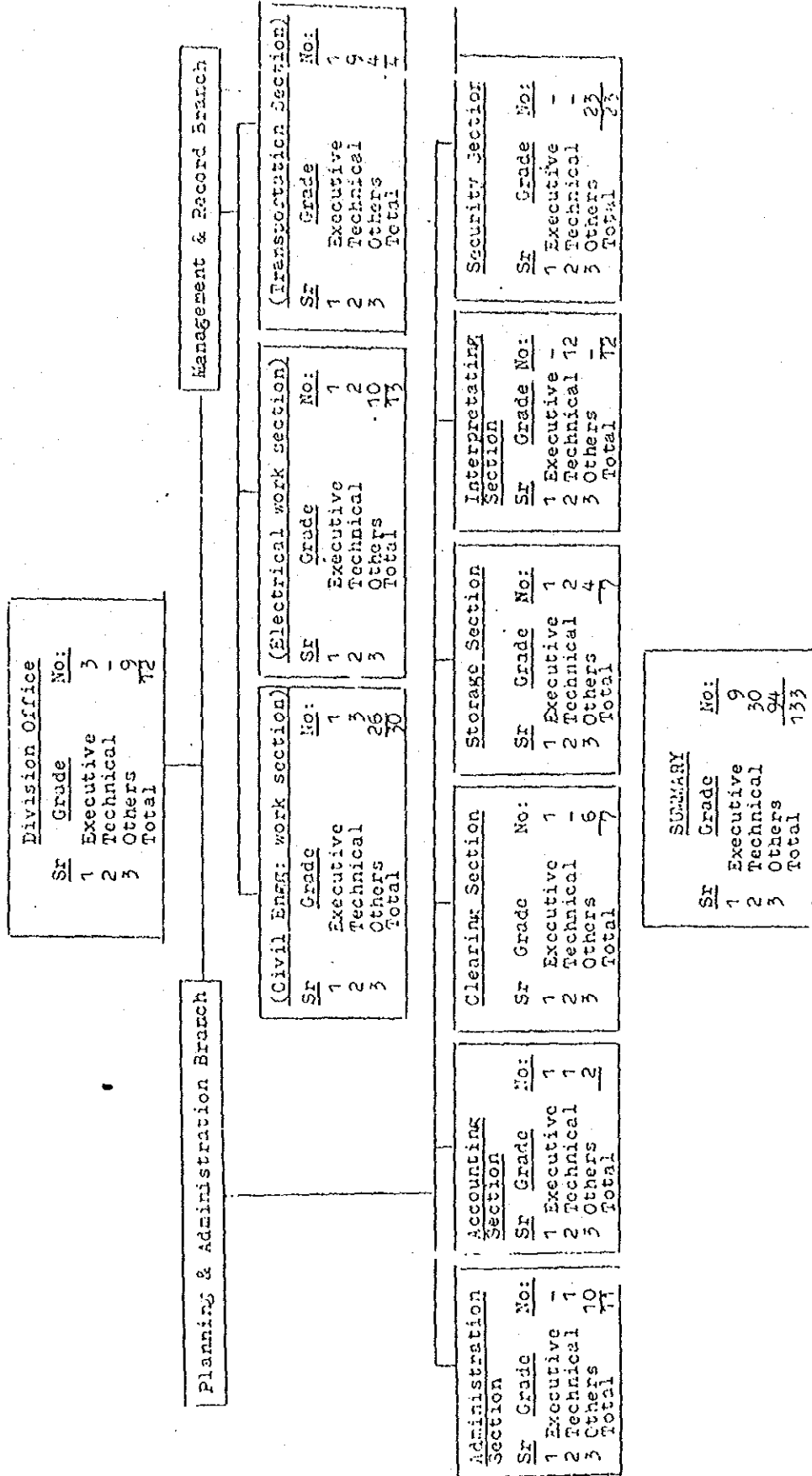


FIG. 1 - PROFILE OF BOREHOLE  
 YOUTH TRAINING CENTRE, THAWUNNA,  
 Drawn by Win Cho, checked by Kon Aye (s.o.x)  
 Date. September, 1983.

資一 7 オンサン競技場の管理組織図



ADMINISTRATIVE CHART FOR THE NATIONAL INDOOR STADIUM (I)  
 TEMPORARY ESTABLISHMENT DURING THE PLANNING AND CONSTRUCTION PERIOD









JICA